

I.2021年度事業報告

I.会勢報告

{総務担当:石橋 基範、中川 千鶴}

【総 数】

(単位:人)

会 員	2021年4月1日	2022年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
	1,329	1,269	43	103	-60

会員資格変更

正会員:	1,242	1,199	29	83	-54	11
準会員:	87	70	14	20	-6	-11

【内 訳】

(単位:人)

支 部	2021年4月1日	2022年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 ():支部間 の移動
北 海 道	29	27	1	3	-2(0)
東 北	47	44	1	4	-3(0)
関 東	731	698	26	57	-31(-2)
東 海	123	120	5	9	-4(+1)
関 西	235	224	6	20	-14(+3)
中 国・四 国	96	90	0	5	-5(-1)
九 州・沖 縄	63	61	4	5	-1(-1)
国 外	5	5	0	0	0(0)
賛 助 会 員	25社 26口	23社 24口	0社 0社	2社 2口	-2社-2口

2. 事業報告

2021年度は、一般社団法人日本人間工学会第7期(2020年6月～2022年6月予定)の2年目として、学会の活性化や会員向けサービスの充実に向けた取り組みを継続した。大きく変わる社会情勢の中、全国大会等のオンライン実施など変化に対応した支部・研究部会活動や、SDGs 検討委員会の設置、国際誌の検討など社会への情報発信を推進した。また、学会の財務体質の健全化に向けて積極的に取り組んだ。

- (1)2021年定時社員総会を2021年5月23日にオンラインにおいて開催し(開催場所:日本人間工学会事務局)、2020年度事業報告・収支決算、2022年度事業計画・収支予算等について審議し、決定した。
- (2)日本人間工学会第62回大会を大須賀美恵子大会長のもと2021年5月22日(土)～23日(日)にオンライン開催した。大阪工業大学梅田キャンパスで開催予定であったが、COVID-19の感染拡大状況を受けて、完全オンラインに切り替えた。
- (3)学会誌「人間工学」の第57巻2～6号及び第58巻1号の計6冊を発行した。
- (4)理事会を2021年4月23日、5月21日、9月15日、2022年2月21日の計4回開催した。
- (5)2021年度論文賞(1件)、研究奨励賞(2件)、グッドプラクティス特別賞(1件)優秀賞(2件)の表彰を行った。
- (6)人間工学専門家認定機構において、各種の専門家資格の試験を実施した結果、認定試験(A方式試験)合格者4名、準専門家合格者20名、アシスタント1名を新たに得た。その結果、2021年度末現在の認定人間工学専門家は211名、準専門家169名、アシスタント16名、シニアCPE12名となった。
- (7)以下の常設委員会・担当及び臨時委員会・担当において各事業を積極的に進めた。

7-1)広報委員会

ホームページでの情報発信、ニュースレターを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。

7-2)編集委員会

学会誌「人間工学」の新運営方針「投稿したいジャーナルを目指して」に基づき、1)学会誌の投稿規程・執筆要項・査読方針・査読基準の改定、2)査読プロセスの短縮化、3)エディトリアル運用、4)執筆要領チェックリストの公開、5)査読委員会制度の創設・運用、6)表彰委員会との協同による査読者表彰制度の運用(トップ10%査読者賞)等を行った。2021年度に採否が判定した投稿論文は通常投稿が39編(採択25編、不採択14編、取り下げ0件、採択率64.1%)であった。

7-3)国際協力委員会

IEA評議会(2021.6.11-12, オンライン)等、国際協力関連会議に委員長初め各委員が出席した。また、IEAとの連絡の窓口となり、JESの情報をIEAに展開するとともにIEAの情報をJESに展開した。本年度は日韓共同シンポジウム(2021.12.4, 関東支部大会併催)をJES主催で開催した。

7-4)ISO/TC159国内対策委員会

DIS等の規格原案に関する計37件の投票を行うとともに、国内委員会を開催し(全体会議3回、分科会58回)審議を行った。また、国際会議出席(45回、のべ120名出席)などによって1件の新ISO規格の発行に寄与した。

7-5)表彰委員会

表彰選考等に関係する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正な業務運営のもと2021年度各賞受賞者に対する授与式を行った。ISO/TC159に関わる規格の標準化に貢献された方々を表彰するため、標準化貢献賞を制定した。2022年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進めた。

7-6)安全人間工学委員会

安全工学シンポジウム2021のOSの企画等を実施した。安全人間工学ニュースレター(メールマガジン)で安全に関わるヒューマンファクターズに関心を持つ会員および非会員にシンポジウムや研究会の情報を発信した。

7-7)学術担当

日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。

7-8)若手支援委員会

前年度に続き、学生を対象とした大学院への進学、および修士課程学生の博士課程進学を支援するセミナーの開催を検討し、新型コロナウイルス感染拡大防止を最大限考慮しつつ第63回大会にて博士後期課程支援にかかるセミナーを開

催する準備を進めた。

7-9) 企業活動推進委員会

諸事情により、委員会活動が一時休止状態になっていたが、再スタートに向けて、委員会用の Slack を立ち上げて、メンバーを招集した。

7-10) 人間工学戦略ロードマップ検討委員会

新たにワーキンググループを組織し、ビジョン、戦略、目標、施策の検討を継続して進め、戦略ロードマップ文案を作成し、学会理事会での報告および第 63 回大会シンポジウムを企画して準備を進めた。

7-11) 国際誌検討委員会

特色ある公式英文誌の方向性として、①「理論と実践の橋渡し」を促進させるジャーナル、②和文誌の資産を継承したハイブリッドジャーナル化、③創刊時にオンラインジャーナルへ移行、④IEA Endorsement Journal 化、の 4 つの方向性およびジャーナルの名称変更案について理事会審議した結果、いくつかの意見が出され、編集委員会と引き続き検討した。

7-12) 子どもの ICT 活用委員会

学校において安全で快適に ICT 機器を利用できるように、児童生徒や学校関係者に分かりやすく、そして実用的なガイドラインの作成を検討してきた。文部科学省による GIGA スクール構想を背景とし、児童生徒が 1 人 1 台の情報端末を利用することを踏まえ、人間工学の視点による課題や社会への貢献について議論した。委員会の取り組みをメディアやイベントでも紹介した。

7-13) SDGs 検討委員会

SDGs 17 目標から人間工学と関連性のある 9 目標に絞り、3 つのワーキンググループを設置し、各グループで議論を重ねた。また、Slack を活用し、適宜 SDGs に関する情報共有や意見交換を行った。ワーキンググループでの議論を基に、「人間工学×SDGs」に関する提言書をまとめた。

7-14) 研究倫理運用推進委員会

倫理指針・実践編を作成するために「現場の「困りごと」募集」のデータを収集し、実践編作成の検討に着手した。

7-15) 第62回大会担当

日本人間工学会第 62 回大会(大須賀美恵子大会長・大阪工業大学)を 2021 年 5 月 22 日(土)~23 日(日)にオンライン(zoom)開催した。企画シンポジウム 11 件、一般発表 21 件、セッション 95 件と、直前の開催形態変更にもかかわらず盛況な会となった。

(8) 支部、部会

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の計 7 支部と、衣服人間工学部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、海事人間工学研究部会、ワーク・アーゴノミクス研究部会、自動車人間工学研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、PIE 研究部会、科学コミュニケーション部会、システム大会部会の計 11 研究部会が、多彩な活動を行った。

(9) 関連学術団体等の共催・協賛・記事掲載等を行った。

(10) 学会事務局では、JENC 事務局業務、編集業務の担当など管理業務の見直しを行い一層の効率化と経費節減を図った。さらに、学会誌や大会講演集の J-STAGE への公開を進め、学会 HP および JES ニュースレターの配信により迅速な情報提供に努めた。

3.委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

3-1.広報委員会

{委員長:山田クリス孝介、副委員長:松岡 敏生、齋藤 祐太}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会、事務局などと連携・協力のもと、ホームページ、JES ニュースレターを中心に広報活動を行った。重要ニュースのお知らせ、学会主催/協賛等のイベント案内、社会発信等をホームページにて情報発信した。
- (2) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続し、掲載事例を増加させるための方策について検討した。方策のひとつとして、安全衛生コンサルタント誌 (Vol.41 No.140 pp.6-34) に特集「人間工学の視点で現場を考える」を寄稿した。
- (3) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」の取り組みを継続し、人間工学の社会への普及に努めるとともに、学会事務局、各委員会と連携し、広報活動を行った。特に、国際協力委員会と連携し、IEA の HFE マップとの連動できるような項目を追加するため、ERGO Directory の改修を行った。
- (4) HP のスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家!」の企画・運営を行った。
- (5) ヴァーチャル・ミュージアムの実現に向け検討した。
- (6) Facebook 等 SNS の有効活用を検討した。

3-2.編集委員会

{委員長:榎原 毅、副委員長:村木 里志}

- (1) 会誌「人間工学」の編集・発行
 - 1) 2021年04月:第57巻2号 (pp.059-102) :エディトリアル1編, 原著論文2編, 短報1編 他
 - 2) 2021年06月:第57巻3号 (pp.103-150) :エディトリアル1編, オープンデータ1編, 原著論文2編, 短報1編 他
 - 3) 2021年08月:第57巻4号 (pp.151-240) :エディトリアル1編, オープンデータ1編, 原著論文3編, 短報1編 他
 - 4) 2021年10月:第57巻5号 (pp.241-300) :原著論文4編, 短報3編 他
 - 5) 2021年12月:第57巻6号 (pp.301-358) :エディトリアル1編, オープンデータ1編, 原著論文2編, 短報1編 他
 - 6) 2022年02月:第58巻1号 (pp.001-046) :エディトリアル1編, 実践報告1編, 原著論文2編, 短報2編 他
- (2) 第7期編集委員会では学会誌「人間工学」の新運営方針を「投稿したいジャーナルを目指して」とし、2020年度は以下に示す取り組みを行った。
 - 1) 学会誌の投稿規程・執筆要項・査読方針・査読基準の改定(2021/4/1, 2021/9/15, 2022/2/21)
 - 2) 査読プロセスの短縮化(主査・副査アサイン期間の圧縮、査読期間短縮、論文修正期間短縮)
 - 3) エディトリアルの運用
 - 4) 執筆要領チェックリストの公開(2021/4~)
 - 5) 査読委員会制度の創設・運用(2022/1~)
 - 6) 表彰委員会との協同による査読者表彰制度の運用(トップ10%査読者賞)
 - 7) 学会誌の発行形態に関する検討および国際誌検討委員会との協働によるジャーナル形態の検討
 - 8) J-stageへの掲載遅延の解消
 - 9) JES62大会での編集委員会企画「人間工学誌に投稿しよう!ー論文投稿から掲載までのポイント解説ー」の開催
- (3) 編集委員会の開催
オンラインによる編集委員会を計3回(5月、8月、11月)、編集・査読合同委員会を1回開催した(3月)。
- (4) 投稿論文数・採択率・査読期間
前年度に引き続き、採録率や査読期間に関する情報をホームページに掲載した。
2021年度に受け付けた投稿論文は、通常投稿が43編であった。2021年度に採否が判定した投稿論文は通常投稿が39編(採択25編, 不採択14編, 取り下げ0件, 採択率64.1%)であった。また、2021年度に判定が確定した論文の1回目査読結果返却の平均日数は、採択論文23.1日, 不採択論文27.3日, 投稿から最終判定通知までの平均日数は、採択論文70.7

日,不採択論文35.1日であった。

(5)その他,編集委員会所掌業務に対応した。

3-3.国際協力委員会

{委員長:小谷 賢太郎、副委員長:鳥居塚 崇}

(1)委員会開催

MLによる委員会の開催,そのほか関連事項について緊密な連絡を実施

(2)理事会審議・報告

広報委員会と共同でHFE Educational Mapの協力についての審議,次回日韓共同シンポジウム開催についての審議,IEA人間工学の和訳修正についての提案,国際学会の協賛依頼の承認,国際協力委員会のウェブサイトにおける情報公開についての紹介,関連学会の日程と開催方法についての報告など

(3)国際交流

・IEA評議会(オンライン,6月11~12日)への参加

小谷委員長,鳥居塚副委員長,榎原委員,および藤田前IEA表彰委員長が出席し,ECメンバー報告,PSE委員会報告,IEA2021大会準備状況,IEA Awards委員会報告,諸団体との覚書について,監査報告,および各国加盟学会からの近況報告などが行われた。

・国際表彰対応(提出資料の準備,表彰委員会との連携,IEA Award Committeeとの事務対応)

・ESK主催国際人間工学シンポジウムへJESの研究者3名を派遣,招待講演としてオンラインにて発表(11月29日)

・JES-ESKジョイントシンポジウムの開催(12月4日,関東支部大会併催)

3-4.ISO/TC159国内対策委員会

{委員長:佐藤 洋、副委員長:横井 孝志}

(1)委員会開催、国際会議出席状況

・国内委員会:全体会議3回、分科会58回(メール審議含む)

・国際会議出席状況:45回の国際会議に延べ120名出席(ネット会議を含む)

(2)発行規格、投票

<新ISO規格>:1件

<投票>:NP:5件,CD:3件,DIS:4件,FDIS:4件,SR:15件,DTR:6件,DTS:0件

(3)分科会活動(メール審議含む)

・SC1(人間工学の一般原則)&WG 分科会3回開催

・SC3(人体寸法と生体力学)&WG 分科会9回開催

・SC4(人間とシステムのインタラクション)&WG 分科会33回開催

・SC5(物理的環境の人間工学)&WG 分科会11回開催

・アクセシブルデザイン関連会議 分科会2回開催

(4)経済産業省の委託事業

令和3年度産業標準化推進事業(戦略的国際標準化加速事業:産業基盤分野に係る国際標準開発活動/テーマ名:インタラクションを成功させるための要件とプロセスに関する国際標準化)の活動に取り組んだ。

3-5.表彰委員会

{委員長:堀江 良典、副委員長:鴻巣 努}

(1)表彰選考等に関係する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正な業務運営を行った。

(2)2021年定時社員総会において功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞の授与式を行った。

- (3) 関西支部大会、関東支部大会において、優秀研究発表奨励賞の授与を行った。
- (4) ISO/TC159 に関わる規格の標準化に貢献された方々を表彰するため、標準化貢献賞を制定した。
- (5) 功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞、トップ10%査読者賞、標準化貢献賞候補の選考を行うとともに、表彰の準備を行った。
- (6) 国際協力委員会とともに、IEA 等国内外の組織の表彰に対する推薦等を行った。
- (7) 表彰委員会ウェブサイトの整備・拡充を行い、JES ホームページにおける表彰関係情報の整合を図った。

3-6.安全人間工学委員会

{委員長:芳賀 繁、副委員長:狩川 大輔}

- (1) 芳賀(委員長, 社会安全研究所), 狩川(副委員長, 東北大学), 鳥居塚(日本大学), 佐相(電力中央研究所), 細田(関東学院大学), 藤野(福井県立大学)の6人で活動した。
- (2) 産業・組織心理学会第141回部門別研究会「日常作業の「うまくいっていること」から学ぶ実践的取り組み」を協賛した。(2021年5月29日(土)、オンライン開催)。
- (3) 日本学術会議安全工学シンポジウム2021の実行委員に佐相委員が就任し、「レジリエンス・エンジニアリングと安全諸理論」をテーマとしたオーガナイズド・セッションを企画し、2021年6月30日に芳賀委員長が司会を務めて開催された。
- (4) 日本学術会議安全工学シンポジウム2022の実行委員に藤野委員が就任した。
- (5) 安全人間工学ニュースレター(メールマガジン:52名に配信)で安全に関わるヒューマンファクターズに関心を持つ会員および非会員にシンポジウムや研究会の情報を発信した。

3-7.学術担当

{担当: 横山 清子、青木 洋貴}

学術担当として、日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合(横幹連合)、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。横幹連合へ学会推薦理事として参画した(青木理事)。

3-8.人間工学専門家認定機構

{機構長:八木 佳子、副機構長:鳥居塚 崇}

(1)会員状況(2022年3月31日現在)

人間工学専門家 211名 (2021年度 資格取得者4名、退会者4名)
 人間工学準専門家 169名 (2021年度 資格取得者19名、退会者5名[内1名は専門家へ登録])
 人間工学アシスタント 16名 (2021年度 資格取得者4名、退会者2名)
 シニア認定人間工学専門家 12名 (2021年度 退会者1名)

(2)資格認定試験及び審査実施状況

資格認定試験(A方式試験)を2回実施(東京2021年9月11日、大阪2022年2月19日)
 受験5名、合格4名
 準専門家・アシスタントの書類審査を年4回実施
 準専門家:応募23名、書類審査に20名合格、1名審査中、2名は2022年度審査
 アシスタント:応募1名、書類審査に1名合格(2020年度審査で3名登録)

(3)定期総会の開催

日時:2021年4月30日(金)13:00~14:00 オンライン開催(zoom)
 出席者:38名、委任状81名

(4)幹事会の開催

第46回幹事会 日時:2021年10月4日(月)18:00~20:00 ネット会議(zoom)
 第47回幹事会 日時:2022年3月17日(木)18:00~20:00 ネット会議(zoom)

(5)再認定の実施

資格更新時期を迎えた人間工学専門家、人間工学準専門家へ再認定手続きについて連絡し、手続きを進めた。

(6)企画セッションの開催

日本人間工学会第62回大会(オンライン)にてCPE企画セッションを開催

2021年5月22日(土)16:15~17:15 C会場

人間工学専門家認定機構の新しい活動について オーガナイザー・司会: 八木 佳子(イトーキ)

(7)イベントの共催

日本人間工学会ワーク・アーゴノミクス研究部会セミナーを共催し、開催情報の広報、参加受付、当日の運営を行った

【主催】日本人間工学会 ワーク・アーゴノミクス研究部会 【共催】人間工学専門家認定機構

2021年12月15日(水)17:30~19:00 第1回 働く環境「照明」~あなたの仕事に適した照明とは?~

2022年03月24日(水)17:30~19:00 第2回 働く環境「音」

(8) ISO 提案プロジェクト;ABW 委員会の活動

機構内に設置したABW委員会に、機構会員から公募した3名の委員の参加を得て、経済産業省令和3年度産業標準化推進事業の一環として、ISO 提案の前段階としての調査に取り組み、成果物として「人とシステムのインタラクションに関する人間工学 ― 第5xx部:ABWに関する調査レポート(仮称)」を作成した。成果物はISO TC 159/SC 4/WG3 国内対応委員会を通じてISO TC 159/SC 4/WG3 第73回会合(国際会議)に提案された。

(9)会報(Web版)の発行

会報 Vol.65 2021年 7月 7日発行

会報 Vol.66 2021年12月24日発行

会報 Vol.67 2022年 3月30日発行

(10)人間工学グッドプラクティス(GP)賞への協力

表彰委員会と協力し、認定人間工学専門家による一次審査を実施し、5月22日の2021年JES定時社員総会にて第9回の表彰を行った。

(11) ビジョン実現に向けた IEA 改定コア・コンピテンシーについての調査

今後のCPE像(ビジョン)実現に向け、改定されたIEA(国際人間工学連合)の人間工学(HFE;Human Factors and Ergonomics)のコア・コンピテンシー読み解きのため、日本語に翻訳した。成果物はJES理事会の確認の後、一般公開の予定。また、ビジョン・認定制度への反映方法に関する調査に着手した。

[臨時委員会・担当]

3-9.若手支援委員会

{委員長:加藤 麻樹、副委員長:境 薫}

前年度に続き、学生を対象とした大学院への進学、および修士課程学生の博士課程進学を支援するセミナーの開催を検討し、新型コロナウイルス感染拡大防止を最大限考慮しつつ第63回大会にて博士後期課程支援にかかるセミナーを開催するための準備を進めた。

3-10.企業活動推進委員会

{委員長:易 強、副委員長:佃 五月、善方 日出夫}

諸事情により、委員会活動が一時休止状態になっていたが、再スタートに向けて、委員会用のSlackを立ち上げて、メンバーを招集し、次期委員会活動のSNSの場を構築した。

3-11. 人間工学戦略ロードマップ検討委員会

{委員長:三林 洋介、副委員長:中本 和宏}

- (1)「戦略ロードマップ」を策定に向けて、新たにワーキンググループ(全11名)を組織し、ビジョン、戦略、目標、施策の検討を継続して進めた。
- (2)戦略ロードマップ文案を作成し、学会理事会での報告および第63回大会シンポジウムを企画して準備を進めた。
- (3)SDGs検討委員会と連携して合同シンポジウム開催を立案、実施に向けて検討した。

3-12. 国際誌検討委員会

{委員長:榎原 毅、副委員長:村木 里志、下村 義弘}

- (1) 前年度に引き続き、日本人間工学会による学術成果の国際発信基盤の整備について検討を行った(8/31(火), オンライン開催)。また、編集委員会との意見交換(11/12(金), オンライン開催)も行った。
- (2) 特色ある公式英文誌の方向性として、①「理論と実践の橋渡し」を促進させるジャーナル、②和文誌の資産を継承したハイブリッドジャーナル化、③創刊時にオンラインジャーナルへ移行、④IEA Endorsement Journal 化、の4つの方向性およびジャーナルの名称変更案について国際誌検討委員会・編集委員会では概ね賛同が得られた。理事会(2/21)にて本方向性について審議した結果、いくつかの意見が出され、国際誌検討委員会・編集委員会にて引き続き検討することとなった。

3-13. 子どもの ICT 活用委員会

{委員長:柴田 隆史、副委員長:岡田 衛}

- (1) 学校において安全で快適に ICT 機器を利用できるように、児童生徒や学校関係者に分かりやすく、そして実用的なガイドラインの作成を検討してきた。そして、委員会のウェブサイトを作成し、学校での ICT 機器利用において安全面や健康面の配慮をした方がよい点をまとめ、情報公開している。
- (2) 文部科学省による GIGA スクール構想を背景とし、児童生徒が1人1台の情報端末を利用することを踏まえ、人間工学の視点による課題や社会への貢献について議論した。また、学会内での議論の場として、大会においてシンポジウムを開催することを検討した。
- (3) 委員会の取り組みを、教育新聞の連載記事「ICTと子どもの健康」の第4回「ICT機器を使う学習環境」において紹介した。その記事については、JES ニュースレター vol.128(2021年11月ニュースレター)でも紹介された。さらに、電子ディスプレイの人間工学シンポジウム 2022(JES 協賛)においても委員会の活動と内容を紹介した。

3-14. SDGs検討委員会

{委員長:常見 麻実、副委員長:庄司 直人}

- (1) 委員会を組織し、オンラインでの委員会を3回(9/7, 11/19, 3/2)開催した。
- (2) SDGs17目標から人間工学と関連性のある9目標に絞り、3つのワーキンググループを設置。各グループで議論を重ねた。また、Slackを活用し、適宜SDGsに関する情報共有や意見交換を行った。
- (3) ワーキンググループでの議論を基に、「人間工学×SDGs」に関する提言書をまとめた。
- (4) 2021年11月29日(月)、大韓人間工学会(ESK)の ESK International Symposium で「Launch of the SDGs Review Committee of the JES: Affinity between SDGs and HFE」と題してSDGs検討委員会の紹介を行った。発表者:庄司直人

3-15. 研究倫理運用推進委員会

{委員長:石橋 基範、副委員長:榎原 毅}

2021年9月に理事会で設置承認され、活動を始めた。日本人間工学会における研究倫理や、学会指針である「人を対象

とする人間工学研究の倫理指針」の啓発・普及活動の一環として、倫理指針・実践編を作成するために「現場の「困りごと」募集」のデータを収集し、実践編作成の検討に着手した。

3-16.選挙管理委員会

{委員長:山田クリス孝介}

- (1) 前回選挙に引き続き、第8期代議員選挙を電子投票システム(i-Vote)にて実施した。
- (2) 第8期選挙管理委員会(全8名)を組織した。
- (3) 代議員選挙では、2021年10月20日に選挙案内の葉書を発送するとともに投票サイトをオープンし、11月12日23:59に投票を締め切った。開票、諾否確認の結果、第8期代議員129名が確定した。
- (4) 役員選挙については従来通り郵送(投票用紙方式)による投票を実施した。
- (5) 役員選挙では、2022年1月24日に役員候補者推薦委員会より候補者の連絡があったことを受け、準備を経て、2月4日に役員選挙案内を有権者(第8期代議員)に発送した。投票期限は2月28日(必着)とした。
開票の結果、役員候補者推薦委員会からの候補者全員の当選が確定し、3月2日に候補者へ通知した。
- (6) これらの選挙経過および選挙結果を、第58回理事会(2021年9月15日)、第59回理事会(2022年2月21日)で報告した。

3-17.選挙管理委員会

{委員長:吉武 良治}

役員候補者推薦委員会内規に基づき、以下のように役員候補者の推薦を行った。

- (1) 推薦委員会委員による理事長候補者の推薦(メール審議)
- (2) 理事長候補者本人の承諾
- (3) 推薦委員会において、理事・監事候補者を推薦
- (4) 理事・監事候補者本人の承諾
- (5) 候補者の略歴等の作成依頼と内容の確認(必要に応じて修正)
- (6) 候補者略歴の選挙管理委員会への送付

3-18.第62回大会担当

{担当:大須賀 美恵子}

日本人間工学会第62回大会は大阪工業大学梅田キャンパスで開催予定であったが、COVID-19の感染拡大状況を受けて、完全オンラインに切り替えた。シンポジウム・一般発表・懇親会第1部にはZoomを用い、休憩室・企業展示・懇親会第2部にはバーチャルスペース oVice を用いた。企画シンポジウム11件、一般発表21セッション95件、参加費納入ベースでの参加者は計327名(内訳:会員184, 準会員18, 非会員73, 学生非会員50)、協賛企業(11社、参加者約30名)と、直前の開催形態変更にもかかわらず盛況な会となった。オンライン開催の貴重な知見やノウハウが得られ、アフターコロナでもハイブリッド開催を望む声が多く寄せられた。詳細は学会誌の開催報告(人間工学 Vol.57, No.4, pp.216-219)を参照されたい。

4.支部活動

4-1.北海道支部

{支部長:平沢 尚毅}

(1) 支部役員会

1) 定例役員会

日時: 2021年9月24日(金)

場所: 持回り

議題 2020年度北海道支部事業報告、2020年度決算報告、2021年度北海道支部事業計画
2021年度北海道支部予算執行計画、2021年度北海道支部大会及び総会予定
その他

(2) 2021年度北海道支部総会並びに大会

大会長: 平沢 尚毅(小樽商科大学)

日 時: 2021年12月11日(土)12:00~

場 所: Web会議(Zoom)

1) 支部総会議題

議題 2020年度北海道支部事業報告、2020年度決算報告、2021年度北海道支部事業計画
2021年度北海道支部予算執行計画、2021年度北海道支部大会及び総会予定

2) 支部大会

13:00~13:05 開会の辞 大会長:平沢 尚毅(小樽商科大学)

13:05~15:15 一般演題 座長:小林 大二(公立千歳科学技術大学)

1. ジャム瓶とペットボトルの開栓補助具のデザイン / 山田 麗良, 小林 大二 (公立千歳科学技術大学)
 2. エスノグラフィー手法を用いた千歳市の路線バスサービスの検討 / 菊地 星南, 高橋 恭矢, 小林 大二 (公立千歳科学技術大学)
 3. ハスカップ栽培における熟練者の暗黙知に関する検討 / 行方 悠馬, 小林 大二 (公立千歳科学技術大学)
 4. 心理生理指標に基づく仮想作業空間の快適性評価手法の検討 / 菊地 晟司, 菅野 友介, 合田 零治, 小西 亮輔, 三宅 晋司, 小林 大二 (公立千歳科学技術大学)
 5. 仮想現実空間におけるワーケーション環境の評価 / 小西 亮輔, 三宅 晋司, 小林 大二 (公立千歳科学技術大学)
 6. 暗算作業遂行中の反応時間, $Fm\theta$, 心拍数の関係 - FLOW状態の検出は可能か? - / 三宅 晋司(公立千歳科学技術大学), 黒坂 知絵, 倉岡 宏幸(産業医科大学), 坂本 寛人, 藤橋 克己(前田建設工業株式会社ICI総合センター)
 7. 同一課題遂行時に対する教示の違いがフロー状態と皮膚ガスに及ぼす影響 / 倉岡 宏幸, 蔵森 航, 中尾 優希, 樋上 光雄(産業医科大学)
 8. 鼻口呼吸マスクが無酸素性作業閾値以下の運動に及ぼす影響 / 上村浩信(室蘭工業大学)
 9. 慣性センサ及び動画像による作業姿勢の簡易計測手法の開発 / 栗野 晃希, 前田 大輔, 泉 巖, 中島 康博(北海道立総合研究機構)
 10. 人間工学国際規格の現状とインタラクティブシステム関連規格の課題 / 福住 伸一(理化学研究所/公立 千歳科学技術大学)
- 15:15~15:30 休憩
- 15:30~16:55 基調講演『「顧客経験における研究の潮流-マーケティング論の視点から-」
鈴木和宏 小樽商科大学商学部教授
- 16:55~17:00 閉会の辞 大会長:平沢 尚毅(小樽商科大学)

4-2.東北支部

{支部長:本多 薫}

(1) 東北支部定時総会

- ・日時:2021 年 5 月 6 日から 5 月 12 日 18 時まで(メール審議)
- ・場所:電子メールによる開催
- ・議題:1. 2020 年度事業報告、2. 2020 年度決算報告(案)、3. 2021 年度事業計画(案)、4. 2021 年度事業予算(案)

(2)支部役員会

1)第 1 回役員会:

- ・日時:2021 年 9 月 3 日(土)~9 月 7 日(火)
- ・場所:メールによる開催
- ・議題:支部長および支部役員の選挙について

2)第 2 回役員会:

- ・日時:2021 年 12 月 19 日(日)13:20~13:50
- ・場所:山形テルサ研修室A室(山形市)(オンラインによるハイブリット開催)
- ・議題:理事会報告、次回研究会、その他

3)第 3 回役員会:

- ・日時:2022 年 3 月 5 日(土)13:15~13:45
- ・場所:オンライン開催(東北大学青葉山キャンパス(仙台市))
- ・議題:理事会報告、次年度の引継ぎ、その他

(3)支部研究会

1)第 1 回研究会:

- ・テーマ:ものづくり現場における人間工学 Part VI
- ・企画:山口俊憲(山形県立産業技術短期大学校)・本多薫(山形大学)
- ・日時:2021 年 12 月 19 日(日)14:00~16:00
- ・場所:山形テルサ研修室A室(山形市)(オンラインによるハイブリット開催)
- ・趣旨:同一テーマでの開催も今回で 6 回目となります。今回は製造現場の働きやすさを目的とした中小企業の取り組みについてご紹介させていただきます。また、ものづくり現場をはじめ様々な現場におけるデジタル化の取り組みとして、生産改善の DX 等についてもご紹介させていただきます。
- ・趣旨説明:講師紹介と最近の取り組み紹介 山口俊憲(山形県立産業技術短期大学校)
- ・講演:精密板金工場における働きやすさの実現に向けた現場改善 佐藤駿也 氏(山形県立産業技術短期大学校産業技術専攻科・社会人学生)

2)第2回研究会:

- ・テーマ:人間-機械系デザインから考える安全
- ・企画:高橋信(東北大学)・狩川大輔(東北大学)
- ・日時:2022 年 3 月 5 日(土)14:00~16:00
- ・場所:オンライン開催(東北大学青葉山キャンパス(仙台市))
- ・趣旨:自動車の自動運転に代表されるように、AI 技術の進歩は、従来は不可能だった領域への自動化技術の適用を可能にしてきました。産業システムのさらなる安全性向上と人口減少社会への対応を図る上で、今後、様々な産業分野において、自動化システムの役割はその重要性をさらに増していくことが予想されます。しかし、システムを扱う人間への影響も含めて考えた時に、単に自動化システムの高性能化・高機能化を推し進めることで、より高い安全性は本当に実現できるのでしょうか? 本研究会では、Boeing767 型機の機長であり、東北大学大学院で社会人学生として Safety-II について研究してこられた山田真理男氏を講師としてお迎えし、新鋭機である Boeing777 から一世代旧型の Boeing767 への機種移行のご経験や、大学院でのご研究成果に基づいて考えた「安全性向上につながる人間と機械の関係性」についてご講演頂きます。それを踏まえて、AI 時代における人間-機械系の望ましいデザインや、その実現のために人間工学がどのような貢献ができるのかについて議論を深めたいと思います。
- ・趣旨説明:趣旨説明と講師紹介 狩川大輔(東北大学)
- ・講演:快の情動と安全 山田真理男 氏(Boeing767 機長、東北大学大学院工学研究科・社会人学生)

4-3. 関東支部

{支部長:矢口 博之}

- (1) 第51回関東支部大会・第27回卒業研究発表会
 - 1)開催日:2021年12月11日(土)~12日(日)
 - 2)会場:東京電機大学 鳩山キャンパス (Zoomによる遠隔開催)
 - 3)大会長:吉村健志先生(海上・港湾・航空技術研究所)
 - 4)参加者113名(正会員:41、非会員:3、学生:69)
 - 5)演題数件(一般演題5セッション15件、卒業研究5セッション21件、企画セッション3件)
 - 6)特別講演:1件「心理学と人間工学」日本人間工学会名誉会員 正田 亘先生
 - 7)日韓共同シンポジウムを併催(4セッション13件)
- (2)支部委員会、支部総会
 - 1)開催日:2021年12月11日(土)
 - 2)会場:東京電機大学 鳩山キャンパス (Zoomによる遠隔開催)
- (3)講演会
 - 1)日時:2022年3月19日(土) 11:00~12:00
 - 2)場所:zoomによるオンライン開催
 - 3)講師 八木佳子先生(イトーキ)
 - 4)演題:コロナ後のオフィスと在宅を合わせた新しい働き方
- (4)ニュースレターの発行:
メーリングリストにより支部選挙の案内、支部大会・総会の案内、講演会の案内を発行

4-4. 東海支部

{支部長:斎藤 真}

- (1) 日本人間工学会東海支部総会開催
 - 開催日時:2021年4月10日(土) 15:00-15:30
 - 開催方法:オンライン開催
- (2) 支部役員会
 - 第1回支部役員会:2021年4月10日(土) オンライン会議開催
 - 第2回支部役員会:2021年10月27日(水) オンライン会議開催
- (3) 日本人間工学会東海支部2021年研究大会の開催(オンライン)
 - 開催日:2021年10月30日(土)
 - 開催場所:三重県立看護大学(三重県津市)
 - 大会長:三重県立看護大学 大西範和 先生
 - 概要:一般講演19演題、参加者88名
 - 産業保健人間工学会第26回大会とオンラインによる同時開催
- (4) 東海支部企画
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

4-5. 関西支部

{支部長:久保 博子}

- (1)企画・行事等
 - 1)2021年度日本人間工学会関西支部大会
 - 開催日程:2021年12月11日(土)
 - 会 場:奈良女子大学(オンライン開催)
 - 大 会 長:久保 博子先生(奈良女子大学)

参加者:合計 74 名

(正会員 39 名, 学生非会員 14 名, 学生会員 6 名, 非会員 5 名, 顧問 0 名)

内容:

・一般講演 20 題

・企画講演 1 セッション 生体データを計測する技術

講演「衣服の着用快適性評価から生まれた衣服型ウェアラブルデバイスおよび、そのバイタルセンシングへの応用」

前田郷司氏 東洋紡株式会社 総合研究所

・特別講演 2 題

講演1:「触感を伴う追体験システム ―技能伝承や相互理解に向けて」

佐藤克成 先生(奈良女子大学 研究院工学系)

講演2:「全身動作の運動イメージに関連した脳活動動態」

中田大貴 先生(奈良女子大学 研究院工学系)

2) 2021 年度 日本人間工学会関西支部 春季講演会(支部総会と併催)

日 程:2022年3月26日(土) 14:00-

会 場:奈良女子大学(Zoom でのオンライン開催)

主 催:日本人間工学会関西支部、ビッグデータ人間工学研究部会

共 催:奈良女子大学

講 演:

春季講演会1「人の歩行・走行によりそう技術・支える技術」(日本人間工学会関西支部担当)

講演1「日本製婦人用革靴プロジェクト i/288」

河内 まき子 氏(国立研究開発法人産業技術総合研究所)

講演2「歩行と走行の動作分析技術とシューズ設計」

市川 将 氏(株式会社アシックス)

講演3「歩行支援用パワーアシストスーツ HIMICO」

岸本 一昭 氏(株式会社株式会社 ATOUN)

春季講演会2(ビッグデータ人間工学研究部会担当)

「ヘルスケアのスマート化を加速するワイヤレス人体センシング技術」

阪本 卓也 氏(京都大学 大学院工学研究科)

参加者:合計71名(正会員58名, 一般2名, 学生11名)

(2) 会議・総会等

1) 第1回幹事会 2021年7月16日(火) 18:00~19:20, Zoom によるオンライン開催

2) 第1回評議員会・役員会合同会議 2021年12月11日(土) 12:30~13:20, オンライン開催

3) 評議員選挙

投票用紙発送:2021年12月21日(火)

投票締切:2022年1月14日(金) (消印有効)

開票作業:2022年1月27日(木) (場所:奈良女子大学事務局)

4) 第2回幹事会 2022年2月8日(火) 18:00~19:20, Zoom によるオンライン開催

5) 第2回評議員会 2022年2月15日(火)~19日(土), メール審議 優秀発表賞の決定

6) 2021年度会計監査 2021年3月24日(木) 資料メール送付による実施

7) 第2回評議員会・役員会合同会議 2022年3月26日(土) 12:00~12:50, オンライン

8) 支部総会(本会議) 2022年3月26日(土) 13:00~13:50, オンライン

(出席者:出席者34名, 議長への議決権委任31名, 計65名)

9) 優秀発表賞授賞式(支部総会と併催), オンライン(50音順, 敬称略)

・城戸千晶(奈良女子大学大学院)

「冬期の寝室温熱環境が高齢者の睡眠および血圧に及ぼす影響

—奈良県都市部および農村部における実測調査—

・松野祐哉(大阪工業大学)

「定常視覚誘発電位を用いた日常的に使えるインタフェース開発に向けた基礎検討」

・宮崎康佑(兵庫県立大学)

「視覚誘発電位に基づく空間情報利用型インタフェースの検討」

・吉田桃子(奈良女子大学大学院)

「火葬場の告別室に設ける光庭デザインについての検討」

4-6. 中国・四国支部

{支部長:内野 英治}

(1) 支部理事会開催

第1回:2021年4月28日(水),16:30~18:00,オンライン開催

第2回:2021年8月22日(日),メール審議

第3回:2021年12月6日(月),メール審議

(2) 支部代議員会開催

2021年12月11日(土),11:50~13:00,オンライン開催

報告事項:

1)次期支部長の選任について,2)2020年度事業報告,3)2020年度決算報告,4)第55回,第56回,第57回日本人間工学会理事会報告,5)2022年度第63回日本人間工学会全国大会の開催予定について,など

審議事項:

1)2021年度事業計画(案)について,2)2021年度予算(案)について,3)今後の支部大会の開催予定について,4)学生向け支部大会及び全国大会参加補助(案)について,5)2021年度優秀論文賞選考について,など

(3) 第53回日本人間工学会中国・四国支部大会

開催日時:2021年12月11日(土)

開催方法:オンライン開催

大会長:内野英治(山口大学)

内 容:一般講演15件(4セッション)

(4) 支部表彰の実施

(3)の支部大会にて発表された講演に対し優秀論文賞1件の授与予定。

(5) 第2期中国・四国支部代議員選挙の実施

投票用紙発送:2021年10月21日(木)

投票締切:2021年11月25日(木) 必着

4-7. 九州・沖縄支部

{支部長:村木 里志}

(1) 2021年度支部代議員会

1)月 日:2021年12月8日(水)~12月14日(火)

2)会 場:メール審議

3)議 題

・2020年度会計報告

- ・2021 年度予算案
- ・その他

(2)2021 年度支部総会

- 1)月 日:2021 年 12 月 18 日(金)
- 2)会 場: 沖縄県立博物館・美術館実習室(オンラインとのハイブリット)
- 3)議 題
 - ・2020 年度会計報告
 - ・2021 年度予算案
 - ・その他

(3)九州・沖縄支部第 42 回大会

- 1)月 日:2021 年 12 月 17 日(金)～18 日(土)
- 2)会 場: 沖縄県立博物館・美術館実習室(オンラインとのハイブリット)
- 3)大会長: 村木里志(九州大学)
- 4)発表演題数:特別企画(International Young Researcher Session)4 件、特別講演 1 件、一般講演 20 件(編集委員会
コラボレーション企画含む)
- 5)参加者:40 名(内オンライン参加者 12 名)
- 6)特別講演

等々力英美(琉球大学)「食と社会の変容から沖縄の長寿を考える」
- 7)表彰
 - ・最優秀発表賞

「大学寮における朝の光環境が睡眠・概日リズムへ与える影響」
岩間朝妃(福岡女子大学)
 - ・優秀発表賞

「リラックス環境での視作業に適した照明環境の検討」
小林春陽(千葉大学)

「抱き枕の人間工学的研究」
須賀雄二郎(九州大学)

「ノンテクニカルスキル向上教育における手法とその効果に関する研究」
岸追求(産業医科大学)

「The Center of Mass During Speed Backward and Forward Gait」
Teerapapa LUECHA (Kyushu University)

5.研究部会活動

5-1.衣服人間工学部会

{部会長:土肥 麻佐子}

(1)活動目的とテーマ

人と衣服と環境の関連に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の研究者の拡大、育成をはかることを目的とする。2012 年度よりは「グリーンファッションに関する研究」をテーマにした活動を継続している。現在は衣服の側面よりSDGsの達成に係る学術的・専門的な知識の啓蒙に努めている。

(2)活動内容

1) 研究例会

衣服の側面より持続可能な社会について考えるための話題提供と知識の啓蒙を目的に、一般公開の例会としてオンライン講演会を2回企画し実施した。いずれも SDGs に関わる社会問題に一貫したコンセプトで取り組み、ビジネス展開している事例であり、参加者が自身の今後の具体的な行動についても考える契機となった。

第1回例会

- ・開催日:令和3年12月18日(土)16:00~17:30 zoomによる開催
- ・講演者:エシカル・ペネロープ(株) 代表取締役 原田さとみ氏
- ・演題: 衣類に関わるエシカル消費&リデザインプロジェクト
- ・参加者:衣服人間工学部会部会員と一般 約40名
- ・概要: 環境破壊、気候変動、貧困など世界が直面している様々な問題を解決するために消費者としてできることは何かについて考える、エシカル消費についてのオンライン講演会を開催した。原田氏らによる繊維商社や企業から提供される地域未利用資材を使ってデザイン学校の学生がデザインし、障がい者支援施設で生産、小売店で販売する「リデザインプロジェクト」の概要と、作り手と使い手の「商品と思い」をみんなで繋ぐエシカルな環への取り組みについてのお話いただいた。

第2回例会

- ・開催日:令和4年2月26日(土)6:00~17:30 zoomによる開催
- ・講演者:kelluna.(ケルナ)代表 前川裕奈氏
- ・演題: スリランカの雇用創出×日本社会へのセルフラブの発信
- ・参加者:衣服人間工学部会部会員と一般 約30名
- ・概要: すべての人の心の健康と衣服の着装という視点から、民族やジェンダー、個人の体型にとらわれない「美」の多種多様な在り方について考えるオンライン講演会を開催した。スリランカで紛争被害の影響、社会的地位、性別や生活環境を理由に、労働市場に参入できずにいた現地の女性を自社工場で雇用しているフィットネスブランドkelluna.(ケルナ)代表の前川氏より、「Beauty comes from self-love (美とは自分を受け入れ愛すること)」というコンセプトに基づく、環境に配慮したウェアなどのプロダクトの紹介、商品を通したボディポジティブティやセルフラブを発信についてお話いただいた。

2) 役員会

Zoomによる役員会を3回開催した。その他例会の打ち合わせなどのメール会議を頻繁に行った。

- ・第1回役員会:2021年6月26日(土)
- ・第2回役員会:2021年12月18日(土)
- ・第3回役員会:2022年2月26日(土)

3) 人間工学誌に2021年度の衣服人間工学部会例会の活動報告をした。

5-2.航空人間工学部会

{部会長:竹内 由則}

(1) 内容

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は、他分野を含む幅広いヒューマンファクター研究にかかわる進展、事故事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討する。

(2) 方法・手段

1) 第102回例会(公開講座)

当初、対面式での開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止・感染予防措置の必要性等により、オンライン形式にて開催した。オンライン形式による開催は、当部会において初めての試みであった。

日時:2021年6月11日(金)13:10-17:00

形式:オンライン(Zoom Webinar)

演題:部会関連組織および部外組織からの講師による4演題

- ・「フライトデータを使った運航のカイゼン支援」(ANA 平澤謙一様)
- ・「航空安全と Just Culture について」(JAL 辻井輝様)
- ・「無人運航船の実現に向けた技術開発について」(NMRI 吉村健志様)
- ・「Safety-II:安全努力が進んださらにその先の安全マネジメント」(慶應大 中西美和様)

聴講者数(事務局含む):約290名

2) 施設見学会

2月頃の開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止・感染予防措置の必要性等により、中止とした。

日時:2022年2月頃(中止)

場所:東京臨海広域防災公園・そなエリア東京

3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示を行った。

4) 委員会・幹事会の開催

A. 委員会

本部会の運営に係る方針を決定するため、例会(公開講座)の前に一度委員会を開催した。また、今年度活動報告及び収支報告のため、年度末の3月に第2回委員会を開催した。委員会もオンライン形式にて開催した。

① 第72回委員会(2021年11月18日、15:30-17:00)、Teamsによるオンライン形式

議題:

- ・2021年度委員及び幹事の確認、日本航空株式会社幹事の交代の報告
- ・第102回例会(公開講座)開催報告
- ・2021年度 収支状況報告
- ・見学会の開催について
- ・第103回例会(公開講座)に向けた準備状況報告
- ・今年度の主な予定の確認

② 第73回委員会(2022年3月30日、15:00-16:30)、Teamsによるオンライン形式

議題:

- ・2021 年度 事業報告および会計報告
- ・2022 年度 事業計画および収支予想
- ・第 103 回例会(公開講座)の準備状況
- ・例会に向けた今後の予定
- ・部会運営に関する今後の方針
- ・朝日航洋株式会社委員および全日本空輸株式会社委員の交代の報告

B. 幹事会

3 回(4、11、3 月)開催

幹事会を開催し、例会及び見学会の開催可否や形式等について議論を行い、部会活動を円滑に進めるとともに、会員の意見を部会活動に反映させることができた。

(3) 成果

コロナ禍の影響を受けて、昨年度は例会(公開講座)を開催することができなかったため、今年度はオンライン形式にて例会(公開講座)を開催した。これは当部会において初めての試みであった。例会への参加者は例年 120 名程度であったが、今回はそれを大きく上回る約 290 名の方に参加いただき、質疑応答も活発になされた。同時に、オンライン形式による課題点も抽出され、今後の要検討事項となった。

一方、施設見学会は中止とせざるを得ず、事業計画通りの実践ができなかったが、来年度はぜひ実施したい。

昨年度に引き続いて委員会及び幹事会をオンライン形式にて開催し、効率化を推進することができた。

5-3.アーゴデザイン部会

{部会長:高橋 克実}

(1) 目的と活動テーマ:

本部会は、モノづくりやサービス開発のために人間工学とデザインが融合した学際分野(アーゴデザイン)に対して、産学共同で研究を行い情報発信することを目的としている。2021 年度は「「Future Experience」~ユーザー、企業、社会環境の三方よしのビジョン提案型手法~」を活動テーマに、フューチャーエクスペリエンスの実践を中心に進め、三方よしのビジョン提案型デザイン手法のための手法確立に向け、方向性を見いだす研究とその成果の情報発信を行ってきた。

(2) 部会運営と主な活動内容

・部会員:79 名(正会員 61 名、学生会員 18 名、2022 年 3 月 31 日現在)

・活動概要:2021 年度は、コンセプト事例発表会 1 回、フォーラム 2 回、ワークショップ 1 回、幹事会 3 回等の様々な活動を実施してきた。以下に主な活動を記す。

1) FX (Future Experience)フォーラム開催 (2021 年 7 月 16 日)

オンライン開催 参加者:56 名

特別講演2件を実施。

◆「ユーザー調査を成功へ導くための「信頼関係」のつくり方」

奥泉 直子(フリーランスのユーザーリサーチャー)

◆「自動運転バス導入における利用者、町との信頼関係(茨城県境町事例)」

改發 社(BOLDLY株式会社)

2) 2021 年度コンセプト事例発表会開催 (2021 年 9 月 25 日)

オンライン開催 参加者:43 名

特別講演1件、口頭発表4件、ショートプレゼンテーション12件を実施。

◆「DNPIにおけるビジョンデザインアプローチの事例」

小林泰明氏(大日本印刷株式会社)

3) ビジョンと信頼～HCD事例発表会+Future Experience (FX)フォーラム開催(2022年1月14日)

オンライン開催 参加者: 92名

発表4件を実施。

◆「ビジョンと信頼の考察」

山崎 和彦(武蔵野美術大学)

◆「UX デザインにおける信頼の扱い」

郷 健太郎(山梨大学)

◆「体験設計と信頼の体験実装～"体験設計"の出版にあたって～」

高橋克実(株式会社ホロンクリエイト)

◆「自分ごととしてのビジョンと信頼～アーゴデザイン部会 FX ワーキンググループの議論から～」

早川 誠二(HCD YOROZU Consulting)

4) 2021 年度 Future Experience ワークショップ(2022 年 3 月 11 日-12 日)

オンライン開催 参加者:24 名

特別講演 1 件、グループでの討論を実施。

◆「マイナンバーカード・サービスにおける UX の観点」

大橋 正司(デジタル庁)

5) その他の活動

- ・FX_WG 活動中(担当幹事:高橋、上田、石山、笠松、郷、佐藤、西内、早川、細田、山崎)
- ・UD 実践ガイドライン WG 関連活動休止中(担当幹事:柳田、山崎、柳田)
- ・FX 教育 WG(担当幹事:笠松、西内、細田、吉武)
- ・アーゴデザイン未来 WG 活動中(担当幹事:石山、大原、笠松、西内、西平)
- ・ホームページ運用(担当幹事:早川、高橋)
- ・学生会員に対する指導、啓蒙を実施(担当幹事:笠松、西内、細田、吉武)
- ・アーゴデザイン部会メールマガジンの発行。(担当幹事:早川)
- ・会員及び幹事会メーリングリスト及び、ホームページホスティングを ergo-design.org にて運営。
- ・Slack による運営情報交換。
- ・コロナ禍の影響で見学会は休止中。

(3)成果と展望：

- ・社会、環境面からもデザインを考えるフューチャーエクスペリエンス(FX)の概念を提唱し、ビジョン構築の手法を考察し、FX の実践的な手法について検討を行ってきた。
- ・今後は、FX のために進化させた Experience Vision の手法を教育の場に広げ、デザインやビジネス教育の現場でどのように指導していくかの検討を進めていきたい。

5-4.感性情報処理・官能評価部会

{部会長:笠松 慶子}

(1)活動目的

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者の拡大、育成をはかる。

(2) 手段・方法

1) 研究室間交流会：2021 年 9 月 28 日(火) オンライン開催

参加研究室 東京都立大学笠松研究室、石原研究室、東京工科大学相野谷研究室

今年度は部会関係の 3 つの研究室による研究室紹介および、学生からの 9 件の発表を行い、情報交換やディスカッションを行なった。研究室以外からの参加もあり、22 名の参加者となった。今後は、部会だけにとどまらない研究室間の交流につなげたい。

2) 第 1 回研究会:2022 年 1 月 28 日(水) オンライン開催 参加者:56 名

・松本和也(愛知ドビー株式会社 シニアデザイナー)

「瞬間蒸発フライパンのデザインとブランディングーRed dot best of best を受賞したバーミキュラフライパンの裏話ー」

3) 第 2 回研究会:2022 年 3 月 22 日(水) オンライン開催(東京都立大学リサーチコア serBOTinQ との共催) 参加者:40 名

「共創とサービスデザイン」

【話題提供】

・ロボット開発におけるサービスデザインのための共創：相野谷威雄(ヴィー・ディー・エス株式会社 代表取締役)

・共創ヒューマンサービスを実現する行動科学:山本淳一(慶應義塾大学 教授)

・サービスロボットデザインマトリックスの紹介:和田一義(東京都立大学 准教授)

【パネルディスカッション】

「ロボットデザイン開発における共創」

ファシリテーター：相野谷威雄(ヴィー・ディー・エス株式会社 代表取締役)

パネリスト：

西内信之(東京都立大学 教授)

武居直行(東京都立大学 准教授)

久保田直行(東京都立大学 教授)

笠松慶子(東京都立大学 教授)

山田罔裕(株式会社メガチップス 取締役、元東海大学 教授)

Azhar Aulia Saputra(東京都立大学 特任助教)

大浦楓子(東京都立大学大学院博士後期課程、産業総合研究所リサーチアシスタント)

4) 第 29 回システム大会の感性・官能セッション:2022 年 3 月 18、19 日(金、土)において、若手研究者による発表講演を組織、支援した。なお、詳細はシステム大会部会より報告。

5) 幹事会の開催:オンラインにて 2 回開催。その他、メーリングリストにて情報共有、審議を行った。

(3) 成果及び展望

企業活動の HCD 活動実践例、ものづくりの現場においてデザイナーが技術をどのように活用しているか、これからのモビリティのあり方とロボット技術の活用について、企業を中心とした異業種の専門家が連携して、新たな価値創造を生むための試みが多くなされている現状の情報提供と情報交換の場を設け、各テーマについて議論することができた。日本におけるモノづくりの品質において、工学が関わる“当たり前の品質”とともに、新たに個人の主観に深く訴える感性価値や経験価値の重要性が増し、その品質の捉え方を探求していく必要性があると考ええる。

今後引き続き、感性・官能の分野を研究領域に含む若手の研究や萌芽的研究に関する、発表・(指導的な指摘も含めた)議論ができる場を提供して行きたい。

5-5. 海事人間工学研究部会

{部会長:才木 常正}

(1) テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから、他国に比べて多くの人が海に携わった仕事に従事している。更に、仕事として関わりが無くても、非常に多くの人が趣味としてマリネレジャーを楽しんでいる。しかしながら、これら海事の分野において、人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ少ない。そこで、本研究部会の活動を

通して、人間工学を海事分野に広く普及させ、海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品導入を加速させる。

(2) 手段・方法

1) 企画セッションの実施

2021 年 12 月 4, 5 日に開催された 2021 年度日本人間工学会関東支部第 51 回大会(オンライン)にて、下記の企画セッションを実施した。

○招待企画セッション

テーマ:海上技術安全研究所の自動運航船の研究開発の紹介(第二報)

目的:海上技術安全研究所では、人と船のインターフェイスであるブリッジを模擬した操船リスクシミュレータを用いて、操船を科学してきた。ここでは、船の分野に押し寄せてきた自動化の荒波の中での、これからの針路について紹介する。

オーガナイザ:吉村健志(海上技術安全研究所)

座長:國分健太郎(海上技術安全研究所)

講演:

1. 「自動運航船の実用化に向けた海上技術安全研究所の取組み(第二報)」國分健太郎(海上技術安全研究所)
2. 「シミュレーションによる自動/無人運航船の評価法検討」南真紀子(海上技術安全研究所)

○企画セッション

テーマ:「海と人」

目的:人間工学に基づき設計されたシステムや製品を海事分野に導入するため、海では様々な計測や評価がなされている。本セッションでは、海でおこなわれている計測や評価に関する最新の動向を紹介する。

オーガナイザ:才木常正(兵庫県立工業技術センター)

座長:吉村健志(海上技術安全研究所)

講演:

1. 「ダイビングマスクに取り付けた加速度センサによる瞬目の検出」○才木常正(兵庫県立工業技術センター、兵庫県立大学)、傍島浩史((株)キヌガワ)、有馬正和(大阪府立大学)、荒木望(兵庫県立大学)
2. 「海事社会におけるヒト視線動向把握の意義—視線計測基礎実験の提案—」○北村健一(鳥羽商船高等専門学校)、瀬田広明(東海大学)
3. 「経験の浅い操船者の負担に着目した着舷操船支援システムの評価」○齊藤詠子、平田宏一(海上技術安全研究所)
4. 「心拍変動と唾液による操船者のストレス評価に関する基礎研究—操船支援システム評価指標の構築を目指して—」廣中楽大*、齊藤詠子**、○村井康二*、平田宏一**、田丸人意*、國分健太郎**、庄司りり*(*東京海洋大学、**海上技術安全研究所)
5. 「NIRS による海岸無線局通信士の知的負担に関する基礎研究—横浜ポトラジオにおける実験—」源波舞(東京国際埠頭株式会社)、○村井康二(東京海洋大学)

2) 見学会の開催

2020 年度に引き続き、2021 年度も東京海洋大学の船舶運航情報を収集管理解析する「先端ナビゲートシステム」の見学会を予定していたが、COVID-19 感染予防対策のために開催を中止した。

3) 幹事会の開催

2022 年 3 月 10 日にオンラインにて幹事会を開催し、2022 年度の本研究部会の事業計画(案)を策定した。

(3) 成果

企画セッションを通じて、最新の海事関連研究に関する情報を発信し、他分野の人間工学専門家や研究員と海事分野における人間工学について議論することができた。また、当研究部会の会員メンバー間で行っている研究「海中での人の生体計測」の成果を他(日本機械)学会であるが発表した。

(4) 展望

人間工学を専門とする研究者や技術者が海事分野における研究課題に関心を持てるよう、さらに魅力的な企画セッション、見学会、座談会等を開催する。更に、当研究部会の活動を広く知ってもらうために、当学会以外にも積極的に情報を発信して

行く。

5-6.ワーク・アーゴノミクス研究部会

{部会長:青木 和夫}

(1)テーマ

テレワーク等の機会が多くなり、オフィス用具やIT機器等の使いやすい環境を自分自身で整備し健康管理を行なうことが必要になってきた。またCOVID-19の感染拡大により在宅勤務が増加し、在宅で適切な作業環境を設定することが課題となっている。そこで、研究部会ではテレワークや在宅勤務も念頭において、自分(他人)の働く・学ぶ環境の設定をできる知識を人間工学専門家向けに提供するとともに、一般向けに知識を提供するために作成したFAQを充実させることを活動の目的とした。

(2)活動内容

1)幹事会 2021年9月8日,2022年2月7日の2回,Zoomによる幹事会を開催した

2)第62回大会における企画セッション「テレワークの人間工学」

- ①「7つの人間工学ヒント」について 榎原毅(名古屋市立大学)
- ②「在宅ワーク／在宅学習実施時のFAQ」について 井出有紀子(NEC)
- ③ディスカッション 司会:浅田晴之((株)オカムラ)

3)セミナーの開催

・第1回 働く環境「照明」(2021年12月15日:Zoom開催)参加者68名

- ①色彩と照明 大内啓子(色彩研究所)
- ②仕事に合わせた照明の使い方 八木佳子(イトーキ株式会社)
- ③視対象に合わせた文字の見やすい照明 松林容子(パナソニック株式会社)

・第2回 働く環境「音」(2022年3月24日:Zoom開催)参加者58名

- ①音環境と人 佐藤 洋(産業技術総合研究所)
- ②音響機器と音質の向上のための信号処理 武藤憲司(芝浦工業大学)

(3)成果と展望

新型コロナウイルス感染の拡大によってテレワークが広く行われるようになるに伴って、様々な問題が生じてきた。これに対し、昨年度作成した「在宅ワーク／在宅学習実施時のFAQ」を第62回大会企画セッションで広く会員に広報し、多くの参加者に知ってもらうことができた。さらに、人間工学専門家認定機構と共催でセミナーを開催することにより、人間工学専門家にもワーク・アーゴノミクス研究部会の活動を知ってもらい、実践の役にたててもらうことができた。

5-7. 自動車人間工学研究部会

{部会長:石橋 基範}

(1)活動目的

以下の取り組みを通して意見交換や人的ネットワーク形成を進め、より使いやすい自動車の研究開発のために人間工学分野の普及・発展に貢献していく。

- 1) 自動運転や空飛ぶクルマといった将来モビリティに関する議論
- 2) 自動車開発に人間工学を活用する方法論に関する議論

(2)方法・手段

- 1) 上記1)を主たるテーマとして、研究部会として独自に講演会(オンライン形式を検討)を開催する。
- 2) 第62回大会で研究部会独自のシンポジウムを実施する。

(3)成果

- 1) 研究部会独自の講演会は未達となった。
- 2) 第62回大会で、将来モビリティ(サービス)を対象に以下の研究部会企画シンポジウムを実施した。

- ・テーマ：将来モビリティの実証実験の最前線
- ・内容：
 - 都市生活者の志向に基づくこれからのモビリティサービス（東京都市大・西山敏樹）
 - 西播磨 MaaS 実証を通じた利用者受容性に関する考察（名古屋大・中村俊之）
 - 全体ディスカッション

5-8.ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長:吉武 良治}

(1)活動主テーマ

- 1) 定量データと定性データを融合した調査研究手法の開発
- 2) ビッグデータ活用ノウハウ集の作成・公開

(2)主な活動内容と手段・方法

1) 幹事会の運営

幹事会運営のため、メッセージングアプリケーション(Slack)でのオンラインの情報交換を開始し、活用している。

2) 日本人間工学会第 62 回大会におけるシンポジウムの企画・開催

・テーマ:人間工学におけるフィールドデータの活用

オーガナイザー:新家敦(島津ビジネスシステムズ)

司会:稲村栄一郎(横河電機)

・発表・話題提供

- 1.流通・小売業のビッグデータ活用ーこれまでとこれからー:三坂昇司(流通経済研究所)
- 2.業務システムの高頻度改善活動に伴うユーザの行動変容:新家敦(島津ビジネスシステムズ)
- 3.モバイル端末でのタッチスクリーン文字入力手法の評価データ:郷健太郎(山梨大学)
- 4.ビッグデータによる生活者情報の把握ーYahoo!JAPAN ビッグデータレポートの試みー:阪上恵理(ヤフー)
- 5.人間工学におけるビッグデータ活用ノウハウ集作成の試み:新家敦(ビッグデータ人間工学研究部会)

3) 講演会・セミナー・イベントの開催

・関西支部 ビッグデータ人間工学研究部会共催セミナー・春季講演会 2(2022/03/26)

「ヘルスケアのスマート化を加速するワイヤレス人体センシング技術」

阪本 卓也先生(京都大学 大学院工学研究科)

オンライン開催、参加者 60 名

4) 第 1 回談話会の開催(2022/03/30)

3 名のスピーカーによる各 10 分程度の講演を行い、それをテーマとして参加者で質疑応答を行った。

1) 三坂昇司氏(公益財団法人流通経済研究所)

「食品スーパーにおけるデータに基づく売り場づくりの今後」

2) 仲谷尚郁氏(三菱重工業株式会社)

「人間工学はなぜ役に立たなかったのか」

3) 新家敦氏(株式会社島津ビジネスシステムズ)

「ビッグデータのディテールを掴む」

オンライン開催、参加者 15 名

(3)成果

1)ビッグデータ活用ノウハウ集の作成・公開

幹事会向けとしていた Slack を、一部会員向けに公開した。その中でビッグデータ活用ノウハウ集を開示しており、現在は以下の 5 つのチャンネル構成としている。この中で調査研究手法なども議論していく。

また、「WG5: 事例と課題と気づき」は、部会主催の講演会後の感想や議論も行えるスペースとしている。

WG1: ビッグデータ活用ノウハウ集

WG2: データの見える化

WG3: センサ・デバイスの活用

WG4: 実験室実験とフィールドの融合

WG5: 事例と課題と気づき

2)他分野からの部会員増加

3/26に開催した春季講演会では、学会外かつ研究部会外からの参加者があった。そのうち2名が研究部会会員に入会した。これは、非拘束の人体センシング技術に関心を持つ人間工学専門外の研究者が本研究部会活動や日本人間工学会活動に関心を示したといえる。今後もビッグデータ×IoT×人間工学をキーワードとして活動し、人間工学会の有用性、重要性を示し、普及を推進するとともに、社会への貢献を目指す。

5-9.PIE 研究部会

{部会長:大須賀 恵美子}

(1)活動目的

IEA (International Ergonomics Association) の TC (Technical Committee) である Psychophysiology in Ergonomics の日本支部として設立した研究部会であるが、現在、IEA の TC は活動していない。引き続き、IEA の PIE の活動を日本発で盛り上げるとともに、国内の活動を継続する。内容は、これまでと同様で、従来の生理心理計測手法とこれを人間工学分野に適用する際の方法論について議論し、新しい生理計測手法や装置に関する情報交換と課題の抽出を行う。さらに、企業と連携して人間工学分野における生理心理計測応用のグッドプラクティス事例の収集、倫理的な側面についても議論を進める。COVID-19 拡大の事態を新しい試みに踏み出す機会と捉え、PIE 研究分野における遠隔実験の可能性を模索するなど、新たな課題に取り組み、啓発活動を行う。

(2)方法・手段

日本人間工学会大会企画セッション・講演会・ワークショップを開催する。

部会員への情報配信を円滑に行い充実させる。

(3)成果

- 1) 第 62 回全国大会 (2021.5.22-23, 大阪:オンライン開催)において、ラウンドテーブルディスカッション「新しい生理心理実験手法への挑戦 ―コロナ禍でのアブノーマルからニューノーマルへ―」を企画し、コロナ禍での実験実施やウェアラブルセンサなどの生体計測可能デバイスの活用と問題点についてディスカッションを行った。当日のチャット内容は研究部会の Web ページにアップした。また、人間工学 57 (4)に参加報告を掲載した (執筆者:渡部貴浩氏)
- 2) IEA2021 (2021.6.13-18, Vancouver, ハイブリット開催)において、Organized Session「Low burden psychophysiological measurement especially for the assessment/improvement of ergonomic factors under the situation of "with COVID-19"」を企画し、5名の発表を行った。
- 3)研究部会の Web サイトの更新、会員名簿の連絡先およびメーリングリストの不達者などを整理し、円滑な情報共有のためのツールを整備した。
- 4)啓発活動の成果として新たに9名の部会員数が入会し、前年度より約13%増となった。

参考:2022年3月31日現在 部会員数70名(うち、日本人間工学会非会員36名)

5-10.科学コミュニケーション部会

{部会長:山田 泰行}

(1)2021年度研究部会テーマ

- 1) 科学コミュニケーションの捉え方や、期待される役割についてのコンセンサスの形成
- 2) 科学コミュニケーションの共通理解に向けた部会企画の開催

(2)活動内容(手段・方法)

- 1)部会幹事によるミーティングの開催

4/18(日)の部会(オンライン開催)では、科学コミュニケーションの捉え方や部会の方向性について部会幹事内のコンセンサスをはかった。ここでは、科学コミュニケーションの取り組みについて情報共有を行い、各幹事の取り組みや、科学コミュニケーションの捉え方などを確認した。7/1(木)の部会(オンライン開催)では、これまでの部会の議論を踏まえた上で、人間工学における科学コミュニケーションの目的や意義、範囲、枠組、位置づけを示す部会特別企画(総説論文)として人間工学誌に投稿するという提案がなされた。8/21(土)~9/28(火)に行ったメール審議では、部会特別企画に掲載する科学コミュニケーションの領域マップを検討し、テーマの具体化と執筆者の選定を行った。9/29(水)の部会(オンライン開催)では、IEA の改訂コア・コンピテンシーの方向性や、科学コミュニケーションに関する学術用語を確認し、領域マップを完成させた。12月以降は、部会特別企画の役割分担と論文作成に着手した。

2) 国際シンポジウムにおける部会活動報告

11/29(月)に開催された韓国人間工学会国際シンポジウム(The Ergonomics Society of Korea International Symposium)では、日本人間工学会における科学コミュニケーション部会の設立報告やこれまでの活動報告、日本の科学コミュニケーション活動の良好事例の情報提供を行った。

(3) 成果と展望

- 1) ミーティングや部会特別企画を進めていく中で、人間工学における科学コミュニケーションの枠組とカバー領域について部会幹事のコンセンサスが促進したこと、それを領域マップによって可視化できたことは大きな成果といえる。
- 2) 科学コミュニケーションに対する認識や期待は学会員間でも異なっているため、部会特別企画や部会主催のシンポジウムなどを通して、領域マップの情報発信をはかりたい。

5-11.システム大会部会

{部会長:衛藤 憲人}

(1) 活動テーマ:

本部会は、感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会が中心となり、人間工学システム連合大会と称し発足、現在システム部会として約30年にわたる活動を行なっている。年一回、例年三月に開催される学術集会(システム大会)であるが、新型コロナウイルス感染状況の観点から、一昨年・昨年に続き、本年度もZoomを用いたOnline形式にて実施した。大会は本年度で30回を迎え、節目として海外演者(Dr. Marino Menotti, スイス連邦工科大学チューリッヒ校)を招き、医療と人間工学のジョイントを目的とした国際シンポジウム(International Symposium on Collaborative Research in Medical Care and Ergonomics, JES System Conference 2022)を開催した。二日にわたり開催した大会は、多くの参加者を集め、極めて成功裏に終えるができた。さらに大会後、複数の日本人間工学会の入会希望者を得ることができ、小さいながらも学会への貢献を行えたものとする。同大会開催に向けて複数回の幹事会を開いたので報告する。

(2) 部会運営と主な活動内容

○システム大会幹事会

・第1回システム大会幹事会

日時:2021年6月5日(土)15:00~16:00

方法:ZoomによるOnline会議

議題:第29回システム大会収支報告・第30回システム大会開催方法の討議等

・第2回システム大会幹事会

日時:2021年7月10日(土)15:00~16:00

方法:ZoomによるOnline会議

議題:海外演者招聘に関する事前会議

・第3回システム大会幹事会

日時:2021 年 11 月 6 日(土)15:00~16:00

方法:Zoom による Online 会議

議題:参加費,夜話,セッション,広報,その他部会運営について

・第4回システム大会幹事会

日時:2022 年 2 月 26 日(土)15:00~16:00

方法:Zoom による Online 会議

議題:システム大会プログラム作成および大会開催最終確認

(3)展望:

発足時は大会幹事研究室所属学生の研究発表の性質が強かったシステム大会であるが,近年全国の研究者より演題が集まるようになった.より開かれた学会を目指し,さらなる他分野の研究者の参加,英文機関紙(Journal of Ergonomic Technology: JET)の発行を推進し,JES 発展に向けて積極的展開を目指している.

Ⅲ.2022年度事業計画(案)

1. 事業計画

{総務担当:中川 千鶴、横井 元治}

- (1)一般社団法人日本人間工学会は、人間工学を実践する学術団体として、健やかな人間の営みと、物理・組織・社会環境が調和した持続可能な社会システムの構築に寄与することを目指す。
- (2)第63回大会を村田厚生大会長のもと2022年7月30日(土)～31日(日)に尾道市役所本庁舎・しまなみ交流館で開催する。
- (3)2022年定時社員総会を2022年6月18日(土)に芝浦工業大学芝浦キャンパスおよびオンラインにおいて開催し、2021年度事業報告・収支決算、2022年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4)第64回大会を下村義弘大会長のもと2023年9月7日(木)～8日(金)に千葉大学けやき会館(西千葉キャンパス)(予定)で開催することとし準備を進める。COVID-19の感染拡大状況によっては、対面とオンラインのハイブリッド、あるいは完全オンライン形式で開催する可能性もある。
- (5)理事会を年4回以上開催する。
- (6)ホームページならびにニュースレター等を中心に広報活動を推進することで人間工学の普及に努める。
- (7)学会誌「人間工学」の新運営方針「投稿したいジャーナルを目指して」に基づき、論文投稿推進策の整備と運用を進める。学会誌「人間工学」の第58巻2～6号および第59巻1号の計6冊を発行する。
- (8)認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年2回実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント各試験を年4回程度実施する。その他、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会、セミナー等を開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (9)長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め、得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、総務担当、財務担当、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、安全人間工学委員会、学術担当、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、若手支援委員会、企業活動推進委員会、国際誌検討委員会、子どものICT活用委員会、将来構想・普及委員会、PSE委員会、第63回大会担当および第64回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (10)支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、海事人間工学研究部会、ワーク・アーゴノミクス研究部会、自動車人間工学研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、PIE研究部会、科学コミュニケーション部会、衣服人間工学部会、医療労働関連 MSDs 研究部会、システム大会部会の計12研究部会で活動を行う。
- (11)IEA(国際人間工学連合)およびACED(アジア人間工学評議会)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEAからの情報の国内展開、およびJES情報の海外発信、IEA評議会およびACEDへの出席準備、IEAアワード申請への協力、IEAおよびACED内の各委員会の協力、JES-ESKジョイントシンポジウムの企画などを行う。
- (12)ISO/TC159(人間工学)分野の規格の作成・審議および人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。TC159/SC1、TC159/SC3、TC159/SC4、TC159/SC5関連の国際会議に出席し、人間工学規格の策定や審議に貢献する。インタラクションが成功する要因に関する国際標準について規格提案に資する活動を行う。
- (13)2022年度各賞の授与式を行う。また、2023年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。各表彰制度の公正かつ効率的な運営および国際表彰への対応の仕組みの検討・整備を進める。
- (14)安全問題にかかわる日本人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。

- (15) 日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローする。
- (16) 研究者としての若手会員を支援するため、若手会員の研究やキャリア形成を支援することを目的とした活動を行う。
- (17) 企業における人間工学活動を可視化し、企業内での活動の活性化を目標とするとともに、学会に参加する企業のメンバーの増加も目指す。
- (18) 日本人間工学会の特色ある公式英文誌の創刊を目指し、第7期で検討を進めた方向性のブラッシュアップおよび運用計画を立案する。
- (19) 子どもがICT機器を活用する上での人間工学課題を検討し、学校教員のみならず児童生徒に対しても分かりやすく人間工学の視点や重要性を伝えることを、引き続き検討する。
- (20) AIの普及、メタバースの活用など、人間を取り巻く技術環境が急速に変化する中で、人間工学の将来的な役割を検討し、あるべき姿・構想を文書として取りまとめて、社会に発信していくことを活動の目的とする。
- (21) IEA改訂コアコンピテンシーに基づき、JESとCPEJが連携しながら人間工学の教育、普及、実践のサイクルを確立することを推進する。
- (22) 学会事務局は、学会内外の情報伝達の要としての役割を果たすとともに、迅速で正確な業務の執行に努め、学会運営の基盤を支える。また、適宜業務内容を見直し、その効率化と経費節減をはかる。

2. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

2-1. 広報委員会

{委員長:青木 宏文、副委員長:松田 文子}

- (1)理事会、支部、委員会、研究部会、事務局などと連携・協力のもと、ホームページ、JES ニュースレターを中心に広報活動を推進する。重要ニュースのお知らせ、学会主催/協賛等のイベント案内、社会発信等をホームページにて情報発信する。また、必要に応じて特設ページの運用も行う。
- (2)グッドプラクティスデータベース(GPDB)の取り組みを継続するとともに、掲載事例を増加させるための方策について検討する。
- (3)「人間工学の総合データベース(ERGO Directory)」の取り組みを継続し、人間工学の社会への普及に努める。
- (4)サステナビリティを考えこれまでの活動を精査しつつ、人間工学の体系化・教育・普及促進に向けてオンラインを活用した“攻め”の広報を行う。

2-2. 編集委員会

{委員長:榎原 毅、副委員長:村木 里志}

- (1)学会誌「人間工学」の年6号分の編集・発行業務を行う(紙媒体およびJ-Stage掲載)。
- (2)学会誌「人間工学」の新運営方針「投稿したいジャーナルを目指して」に基づき、論文投稿推進策の整備と運用を進める。特に、第7期編集委員会活動の自己評価(エディトリアル vol58(2))に基づき、「理論」と「実践」の両輪を扱うジャーナルとして「実践」系の論文の投稿促進策を展開する。
- (3)投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備など、編集委員会業務の推進にあたり、各種委員会との協力・連携をはかる。
- (4)編集委員会を原則年3回、査読委員会を原則年2回開催する。
- (5)学会誌の新投稿区分、新査読方針・査読基準・執筆要領チェックリスト、査読者表彰制度、査読プロセスの短縮化、査読委員会制度など新たな制度を積極的に活用し、人間工学領域の発展を目指した投稿促進と新しい課題の共有を行い、学会誌を通じた学会員との対話の場を提供する。
- (6)学会誌の発行形態に関し、引き続き国際誌検討委員会との協働による検討を行う。
- (7)学術データベースMEDLINE(Pubmed)への学会誌登録を検討する。
- (8)その他、編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる。

2-3. 国際協力委員会

{委員長:小谷 賢太郎、副委員長:榎原 毅}

- (1) IEA 評議会(10月予定)への出席
- (2) ACED 評議会(6月30日、オンライン)への出席
(1)(2)については国際協力委員がJESからのcouncil memberとして3名分の投票権執行
- (3)国際協力活動およびその他
 - ・IEA アワード申請への協力
 - ・IEA 内の各委員会への協力
 - ・ACED 内の各委員会への協力

- ・学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加
- ・学会誌への国際学会参加報告の執筆
- ・国際誌検討委員会への協力
- ・そのほか、JES 活動に関する海外への情報発信、国際協力委員会ウェブサイトの更新・広報など

2-4.ISO/TC159国内対策委員会

{委員長:佐藤 洋、副委員長:横井 孝志}

ISO/TC159(人間工学)分野の規格の提案、作成、審議、ならびに人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。

(1)会議:全体会議3回、分科会延べ30回前後開催予定

(2)日本主導で審議が予定されている項目

- ・WG2(高齢者・障害者の人間工学)
 - ・ISO/TR 22411-2 Ergonomic data and ergonomic guidelines for the application of ISO/IEC Guide 71(2nd Edition)
- ・SC5(物理環境の人間工学)
 - ・ISO/CD 24505-2 Ergonomics — Accessible design — Method for creating colour combinations — Part 2: For people with defective colour vision and people with low vision
 - ・ISO/DIS 24505 Ergonomics — Accessible design — Method for creating colour combinations taking account of age-related changes in human colour vision

(3)国際会議予定

- ・TC159/SC1 関連会議、TC159/SC3 関連会議、TC159/SC4 関連会議、TC159/SC5 関連会議ほか

(4)経済産業省委託事業

令和4年度産業標準化推進事業(戦略的国際標準化加速事業:産業基盤分野に係る国際標準開発活動/テーマ名:インタラクションを成功させるための要件とプロセスに関する国際標準化)に取り組む。

2-5. 表彰委員会

{委員長:吉武 良治、副委員長:鴻巣 務}

- (1)表彰選考等に関係する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159 国内対策委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営を行う。
- (2)功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞、トップ10%査読者賞、標準化貢献賞の選考を行い、各受賞者に対する授与式を行う。
- (3)大会における優秀研究発表奨励賞の選考を行い、受賞者の所属する支部大会において授与する。
- (4)表彰委員会ウェブサイトの拡充を図るとともに、受賞者や表彰事例の周知等、学会内外への情報提供に努める。
- (5)本学会以外の IEA 等国内外の組織の表彰に対する候補者を推薦する。

2-6.安全人間工学委員会

{委員長:芳賀 繁、副委員長:狩川 大輔}

- (1) 前年度に引き続き芳賀(委員長, 社会安全研究所), 狩川(副委員長, 東北大学), 鳥居塚(日本大学), 佐相(電力中央研究所), 細田(関東学院大学), 藤野(福井県立大学)の6人で活動する。
- (2) 他の学協会と連携して、安全に関わる研究・実践活動に関する交流・情報交換の場をつくる。
 - (2-1) 日本学術会議主催「安全工学シンポジウム 2022」を共催し、オーガナイズド・セッションを企画・運営するとともに、幹事学会(土木学会)はじめ関係学会と共にシンポジウム全体の運営を行う。また、2023年度に幹事学会としてシンポジウムを実施する準備を開始する。
 - (2-2) 産業・組織心理学会部門別研究会を協賛し、研究会への参加を呼びかける。
 - (2-3) 「安全・安心のための安全管理と社会環境ワークショップ」を日本品質学会等と日本原子力学会ヒューマン・マシン・システム研究部会ほかとともに主催する。
- (3) 引き続きメルマガを通して安全に関わるヒューマンファクターズの情報を発信する。
- (4) 人間工学の視点から安全上の諸問題について社会に向けた発信を行う。

2-7.学術担当

{担当:青木 洋貴、能登 裕子}

- (1) 日本学術会議、文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的に注視していく。
- (2) 横断型基幹科学技術研究団体連合の理事として総会等に参加し、情報交換を行う。
- (3) 「人間工学研究のための倫理指針」について研究動向等から検討する。

2-8.人間工学専門家認定機構

{機構長:八木 佳子、副機構長:井出有紀子}

- (1) 資格認定試験及び審査を実施する。
 - ・資格認定試験(A 方式試験)を年2回、東京と大阪会場で実施する。
 - 2022年9月10日(土) 東京開催
 - 2023年2月18日(土) 大阪開催
 - ・準専門家・人間工学アシスタント審査を年4回程度実施する。
- (2) 定期総会、幹事会を開催する。
 - 総会 日時:2022年4月22日(金) 17:00~18:00
 - 幹事会(2回開催予定)
- (3) 再認定を促進するため、個別にご案内の連絡をする。
- (4) JES内外にCPEのビジョン発信及び活動紹介を行うため、全国大会等で発表及びPRする。
- (5) 機構ホームページ、会報、人材DB(ERGO Directory)、学会大会、広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める。
- (6) CPEセミナー、CPEサロン(交流会)等のイベントを充実させる。
- (7) 専門家の活躍の場を作るためのISO提案プロジェクトに取り組む。
- (8) 受験ガイドブック等を英語に翻訳し公開するなど、英語による受験への対応体制を整える。
- (9) 「人間工学グッドプラクティス賞」(GP賞)の審査に積極的に協力する。
- (10) ビジョン実現に向けた検討と認定制度の再検討を行う。
- (11) 時代の変化と技術の進歩に対応するため、受験ガイドブックの改定を行う。

[臨時委員会・担当]

2-9.若手支援委員会

{委員長:神田 幸治、副委員長:境 薫、石橋 圭太}

前年度までの事業計画を継承し、若手会員(20 代学部生・大学院生中心)の研究やキャリア形成を支援することを目的とした活動を行う。

- (1) 学生や若手の研究活動に資するセミナーや交流会を開催する。
- (2) 学生や若手の研究キャリアを支援するために、大学院進学後の進路や就職に関するセミナーや座談会を開催する。
- (3) 若手会員が委員会活動に積極的に関与し、自主的かつ協調的にイベントや研究会などを開催できるような枠組みを設計する、あるいは若手会員主導による企画を支援する。
- (4) 学生や若手が学会活動に継続的に参加できるような仕組みを検討する。
- (5) 他委員会、支部大会と連携した支援企画を検討する。

2-10. 企業活動推進委員会

{委員長:佃 五月、副委員長:横山 詔常}

(1)委員会活動の目的、目標

- ・企業における人間工学活動の現状(成功事例、課題など)について情報共有し、アクティブにするための活動を行う。
- ・日本人間工学会の活動に参加する企業のメンバーの増加を目標とする。

(2)アクションプランの作成

- ・企業での人間工学活動の現状を把握する。
(会員の企業メンバー構成比のトレンド把握、企業メンバーからのヒアリング・座談会など)
- ・収集した情報から、企業内での活動における課題などを抽出
- ・産官学の連携による、気軽に参加できるイベントなどの企画立案

(3)活動成果の顕在化

- ・学会のホームページ、大会などを通じて情報発信する。
- ・他の委員会と連携を取る。

2-11.国際誌検討委員会

{委員長:榎原 毅、副委員長:村木 里志、下村 義弘}

学会の公式和文誌「人間工学」は日本の重要誌500誌のひとつとして選定され、当時のJournal @rchive事業で全電子アーカイブ化がなされるなど、和文誌としては国内有数の歴史を持つジャーナルのひとつである。一方、学術成果の国際発信基盤の整備という面においては、周辺研究分野に比べ遅れている。日本人間工学会の特色ある公式英文誌の創刊を目指し、第7期で検討を進めた方向性のブラッシュアップおよび運用計画を立案する。学会誌発行60巻(周年)の節目でもある2024年中の運用開始を目指す。

- (1) 特色ある公式英文誌の方向性のブラッシュアップ:①「理論と実践の橋渡し」を促進させるジャーナル,②和文誌の資産を継承したハイブリッドジャーナル化,③創刊時にオンラインジャーナルへ移行,④IEA Endorsement

Journal化,の4つの方向性のブラッシュアップを行う。また,ジャーナル名称についても引き続き検討を行う。

- (2) 具体的な運用計画の立案:発刊予定の国際誌が対象とする範囲・特色や投稿規程,各種プラットフォーム(出版社,投稿・査読システム,査読方針,掲載料など)ならびに組織運用体制などの制度設計
- (3) 国際誌の継続発行(持続可能性)に関する方策の検討(論文投稿者のボトムアップ・育成方策を含む)
- (4) 人間工学研究知見の社会還元を促進させるトランスレーショナル・ジャーナルに必要となる仕掛けの検討(国際誌のアウトリーチ戦略を含む)
- (5) その他,国際誌の発行・運営に必要な諸活動の実施

2-12.子どもの ICT 活用委員会

{委員長:柴田 隆史、副委員長:岡田 衛}

- (1) タブレット端末や電子黒板などの ICT 機器が学校に導入されている状況を鑑み、子どもが ICT 機器を活用する上での人間工学課題を検討し、学校教員のみならず児童生徒に対しても分かりやすく人間工学の視点や重要性を伝えることを、引き続き検討する。
- (2) 学会内及び他の研究会や会議などの機会を活用して議論を深め、子どもの ICT 機器利用の在り方を検討する。

2-13.将来構想・普及委員会

{委員長:持丸 正明、副委員長:青木 宏文、榎原 毅}

AI の普及、メタバースの活用など、人間を取り巻く技術環境が急速に変化する中で、人間工学の将来的な役割を検討し、あるべき姿・構想を文書として取りまとめて、社会に発信していくことを活動の目的とする。

- (1) 社会構造変化の整理、人間工学の役割の検討

委員長、副委員長を中心とする数名の委員メンバーでのディスカッションを通じて、社会構造変化を整理し、それに対応する人間工学の新たな役割について検討を進める。

- (2) 具体的な適用フィールドを事例とした構想案の作成

事例として、モビリティやテレワークなど、AI・メタバースの活用が急速に進むフィールドを選定し、新たな社会構造に対する人間工学のあるべき姿、構想を描きだし、文書化する。

- (3) 公開ワークショップの開催、意見交換

オンライン、もしくは、国内大会と連動した対面の公開ワークショップなどを企画し、上記の構想案を発信して、参加者と意見交換を行う。その結果に基づいて、引き続き、構想案の修正や一般化を検討する。

2-14.PSE 委員会

{委員長:鳥居塚 崇、副委員長 八木 佳子}

- (1) 改訂コアコンピテンシーが IEA から発行されたことに伴い、JES においても改訂コアコンピテンシーに基づいた、時代に相応しい人間工学の考え方を浸透、普及させるとともに、それらを実践していく必要がある。PSE (Professional Standard and Education) 委員会は、JES と CPEJ が連携しながら人間工学の教育、普及、実践のサイクルを確立することを目的とする。
- (2) 将来構想・普及委員会、広報委員会と連携を取りながら、社会への浸透、普及の方策を検討、実践する。

2-15.第 63 回大会担当

{担当:村田 厚生}

【開催日】2022年7月30日(土)～31日(日)

【大会会場】尾道市市役所本庁舎,しまなみ交流館

COVID-19の感染拡大状況によっては,オンライン形式で開催する可能性もある.

特別講演講師は米国在住のためリモート形式で実施する.時差を考慮し,1日目の午前中にしまなみ交流館にて行う.

【懇親会会場】尾道国際ホテル(事前登録のみ受付)

COVID-19の感染拡大状況によっては懇親会を中止する可能性もある.

【内容】特別講演,一般講演,シンポジウム等

2-16.第 64 回大会担当

{担当:下村 義弘}

【開催日】2023年9月7日(木)～8日(金)

【大会会場】千葉大学けやき会館(西千葉キャンパス)(予定)

COVID-19の感染拡大状況によっては,対面とオンラインのハイブリッド,あるいは完全オンライン形式で開催する可能性もある.

【懇親会会場】千葉大学けやき会館(予定)

COVID-19の感染拡大状況によっては,懇親会に替えて,懇親用土産の事前発送とオンライン座談会とする可能性もある.

【内容】特別講演,一般講演,シンポジウム等

3.支部活動

3-1.北海道支部

{支部長:小林 大二}

(1) 支部役員会

日時:2022年5月下旬(予定)

場所:Web開催(予定)

議題:

- ・令和3年度北海道支部事業報告、令和3年度決算報告
- ・令和4年度北海道支部事業計画、令和4年度北海道支部予算執行計画
- ・令和4年度北海道支部大会及び総会、令和5年度北海道支部大会及び総会の実施計画
- ・その他

(2) 令和4年度支部総会並びに支部大会

日時:2022年11月(予定)

場所:小樽商科大学札幌サテライトあるいはWeb会議(予定)

支部総会議題:

- ・令和3年度北海道支部事業報告、令和3年度決算報告
- ・令和4年度北海道支部事業計画、令和4年度北海道支部予算執行計画
- ・令和5年度北海道支部大会及び総会の予定
- ・その他

3-2.東北支部

{支部長:高橋 信}

(1) 支部役員会

・年3回以上開催予定(支部研究会時に開催)

他、必要に応じメール審議にて実施

(2) 支部総会

1)日時:2022年5月上旬開催(予定)

2)場所:電子メールにて開催

3)議事:2021年度事業報告、2021年度決算報告

2022年度事業計画案、2022年度事業予算案、など。

(3) 支部研究会

年3回の開催(対面とオンラインのハイブリット)を予定。これまで山形市と仙台市を中心に行ってきた研究会を、支部内の他の地域での開催を検討し活動のより一層の活性化と交流を目指す。

(4) その他

研究会では、研究者と企業人・実務家との意見交換を積極的に行う。

3-3.関東支部

{支部長:三林 洋介}

(1) 第52回関東支部大会・第28回卒業研究発表会

1)開催日:2022年12月3日(土)、4日(日)

2)大会長:船田眞里子先生(白鷗大学本キャンパス(栃木県小山市))

3)開催方法:対面開催(予定)

(2) 支部委員会、支部総会

- 1)開催日:2022 年 6 月・12 月 (予定)
- 2)開催方法:メール、Zoom による遠隔開催を計画中
- (3)講演会(または見学会)
 - 1)日時:2023 年 3 月(予定)
 - 2)場所:zoom による遠隔または対面開催を計画中
- (4)ニュースレターの発行:
メーリングリストにより支部大会総会の案内、講演会の案内等を発行予定。

3-4.東海支部

{支部長:斎藤 真}

- (1) 日本人間工学会東海支部総会開催
 - 開催日時:2022年5月14日(土) 15:00-15:30
 - 開催方法:オンライン開催
- (2) 支部役員会
 - 第1回支部役員会:2022年5月14日(土) オンライン会議開催
 - 年2回から3回開催予定、必要に応じてオンラインまたはメール会議を開催
- (3) 日本人間工学会東海支部 2022 年研究大会の開催
 - 開催日:2022年10月29日(土)
 - 開催場所:朝日大学保健医療学部(岐阜県瑞穂市)
 - 大会長:朝日大学保健医療学部 菅嶋康浩 先生
- (4) 東海支部企画
 - 実務者・初学者のための人間工学測定技法講座の開催(Webinarも視野に入れて企画)
 - 企業見学会の企画、開催
 - 特別企画セミナー等を開催予定

3-5.関西支部

{支部長:小谷 賢太郎}

- (1)企画・行事等
 - 1)2022年度 関西支部第1回見学会 2022年 6~8月頃(コロナ禍の情勢を見ながら計画)
 - 2)2022年度 関西支部ワークショップ 2022年10月頃~12月
 - 3)2022年度関西支部 第2回見学会(支部大会のプレ企画として実施を検討中)
 - 4)2022年度日本人間工学会関西支部大会
 - 大会長:佐藤 望(近畿大学)
 - 開催日:2022年12月頃
 - 会 場:近畿大学+オンラインの併催予定
 - 詳細は4月以降
- (2)会議等
 - 1)第1回幹事会 2022年 6月
 - 2)第1回評議員会・役員会合同会議(支部大会と併催) 2022年 11-12月
 - 3)2022~2023年度支部長・副支部長、評議員選挙 2022年11月~2023年1月
 - 4)第2回幹事会 2023年 2月
 - 5)第2回評議員会(メール審議)2023年 2月
 - 6)2022年度会計監査 2023年 3月
 - 7)第2回評議員会・役員会合同会議 2023年 3月(総会前)
 - 8)2022年度関西支部総会 2023年 3月

9)2022年度支部大会優秀発表賞表彰式 2023年 3月
※7~9は併催予定
その他, 必要に応じ, 幹事会および評議員会メール審議を行う。

3-6.中国・四国支部

{支部長:石原 茂和}

- (1)支部理事会開催
 - 第1回:2022年6月下旬, オンライン開催またはライブ開催(全国大会運営打ち合わせを兼ねる)
 - 第2回:2022年12月下旬, オンラインまたはライブ開催(場所:未定)
 - 第3回:2023年3月下旬, オンラインまたはライブ開催(場所:未定)
- (2)支部代議員会開催
2022年12月下旬, オンライン開催
- (3)日本人間工学会第63回大会
2022年7月30・31日(土, 日) 尾道市市役所本庁舎, しまなみ交流館 にて開催
<https://www.ergonomics.jp/conference/2022/index.html>
準備および開催を実施
(支部大会は2022年は独立して開催しない. 支部会員の積極的発表参加をプロモーションした)
- (4)支部講演会開催
年数回実施(予定)
- (5)支部主催・共催行事の実施
随時

3-7.九州・沖縄支部

{支部長:庄司 卓郎}

- (1)活動計画
 - 1)2022年度支部代議員会
 - ・開催日:未定(支部大会に開催予定, 必要に応じてオンラインで随時開催)
 - ・会 場:未定
 - *ハイブリット(オンラインと対面)会議やメール会議での開催も検討
 - 2)2022年度支部総会
 - ・開催日: 未定(支部大会時に開催予定)
 - ・会 場:未定
 - *ハイブリット(オンラインと対面)会議やメール会議での開催も検討
 - 3)第43回支部大会
 - ・開催日: 未定
 - ・会 場:未定
 - ・大会長:未定

4.研究部会活動

4-1.航空人間工学部会

{部会長:竹内 由則}

<2018.4.1~2023.3.31>

(1) 内容

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、他分野を含む幅広いヒューマンファクター研究にかかわる進展、事故事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討する。

(2) 方法・手段

1) 研究例会(公開講座)の開催

日時:2022年6月23日(木)13:00-17:00(予定)

場所:東京都品川区 野村不動産天王洲ビル2階ホール(ウイングホール)

講演:以下のテーマについて4演題を予定

- PSP(ピアサポートプログラム)、疲労管理の取り組み
- 無操縦者航空機をめぐる現状
- 後方乱気流区分の再分類(RECAT)

2) 施設見学会の実施

ヒューマンファクタや各企業による安全への取り組みなどを介し、学び・知見を得ることを目的に、施設見学会を計画・実施する。可能な限り、一般公開していない施設・場所を対象とする。

3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みに活用する。

4) 委員会・幹事会の開催

適宜委員会及び幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。対面式・オンライン形式の両方を活用し、効率化をはかる。

(3) 期待される成果

例会(公開講座)及び見学会の活動を通じ、航空安全の推進に関わる官・民・学の関係者が交流する場を当部会が提供する。関係者がお互いの情報を共有し、議論を行うことで、航空人間工学や航空安全技術に関する動向等の知見獲得が可能となり、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものと考ええる。

4-2.アーゴデザイン部会

{部会長:高橋 克実}

<2018.4.1~2023.3.31>

(1) 活動テーマ

「Future Experience」～ニューノーマル時代の三方よしのビジョン提案型デザイン手法～

2022年度はフューチャーエクスペリエンス(FX)の確立に向けた実践的な手法で事例を通じた研究活動を実施する。また、これまで研究してきたビジョン提案型デザイン手法との関係を明快にし、アーゴデザインを実践する。また、今回世界を震撼させている新型コロナウイルスの影響により、今後のFuture Experienceの世界観に影響が出ると考え、「ニューノーマル時代のビジョンデザイン」についての研究と議論をアーゴデザインの視点から実施していくこととする。

(2) 手段・方法

1) フューチャーエクスペリエンス(FX)-WGの活動強化

フューチャーエクスペリエンス(FX)-WG の活動を今年度も更に強化していく。部会活動のテーマである「Future Experience」～ニューノーマル時代のビジョン提案型手法～の検討を本格化させ、新たな方法論確立に向け、オンラインワークショップ、オンラインミーティングを可能な限り実施し、その研究活動と方法論発表の機会を創り出す。

2) フューチャーエクスペリエンス(FX)の啓蒙・普及活動の実施

「フューチャーエクスペリエンス(FX)」については、これまで以上に EXPERIENCE VISION 普及のためのイベントとしてオンラインフォーラムを開催する。また、Zoom や Miro などのツールによるオンラインセミナー、オンラインワークショップを行い、「ニューノーマル時代の Future Experience」の活動との連携を図る。

3) 学生会員に対する部会活動の充実

定着した学生会員制度により、学生会員が固定化している。2019 年度より FX 教育 WG を設立し、これまで以上に学生の研究やデザイン活動を支援する活動の充実を図る。これにより、次世代を担う研究者やデザイン実務者の育成を強化する。

(3) 期待される効果

テーマに関する研究を本格化することで、将来の社会、環境のあり方を見通し、人間生活をデザインするための基盤となるフューチャーエクスペリエンス(FX)「ユーザー、企業、社会環境の三方よしのビジョン提案型デザイン方法論」(手法やプロセス)を提供することができる。更にこの方法論を取り入れた「新しい EXPERIENCE VISION」の啓蒙・普及により、社会、環境、産業に貢献できる。

(4) 活動予定

4 月 幹事会(幹事の役割、担当行事の検討)

8 月 コンセプト事例発表会、幹事会

10 月 見学会

1 月 FX フォーラム開催(HCD_net 京都サロン合同)

3 月 2022 年度 合宿研究会、総会、幹事会

4-3. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長: 笠松 慶子}

<2018.4.1~2023.3.31>

(1) テーマ

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から工学的応用までを多角的に取り上げ、研究者・デザイナーおよび職人どうしの情報交換と研究の活性化、および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者およびデザイナーの育成をはかる。

(2) 手段・方法

感性情報処理や官能評価の基盤となる人間の感覚・知覚・感情・認知等の諸特性、およびそれらの測定・評価方法や数値モデル等の研究成果や製品、サービス等の開発成果について先端的独創的な研究を紹介する。加えて、講演会や若手研究者を主体とした研究会や関連の研究・開発施設や工房などの見学会などを必要に応じて企画・実施する。以上の活動を通して研究者やデザイナー相互の情報交換や交流をはかるとともに、若手研究者・デザイナーの研究意欲を喚起し、人間工学に限定されない有益で具体的なアウトプットの創出の機会を支援する。

(3) 期待される成果

主に感性情報処理と官能評価に関わる研究者の関心や専門領域を共有しつつ、新たな情報や手法などに刺激されたり学んだりする機会を広範に提供することにより、特に若手研究者の裾野の拡大や関連領域の学問との交流を活性化させることが期待できる。また、研究成果の実用化に伴うさまざまな困難・課題を部会会員が相互に共有・議論する機会を提供・支援することを通して、人間工学の一層の発展に資することが期待できる。

以上は、人間工学の実践における人間理解の拡大・深度化にもつながるものと考えられる。それらの過程で、これまで職人の職能としてのみ伝えられてきたモノづくりのノウハウを技術化・見える化を通して、それらのノウハウを現職の職人・デザイナーに提案・還元することで、これまでのモノづくりに新たな価値(例えば感性価値や経験価値)を付加することを可能とする。

4-4.海事人間工学研究部会

{部会長:才木 常正}

<2018.4.1~2023.3.31>

(1)テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから、他国に比べて多くの人が海に携わった仕事に従事している。更に、仕事として関わりが無くても、非常に多くの人が趣味としてマリンレジャーを楽しんでいる。しかしながら、これら海事の分野において、人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ少ない。そこで、本研究部会の活動を通して、人間工学を海事分野に広く普及させ、海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品導入を加速させる。

(2)手段・方法

1)企画セッションの提案

毎年度、人間工学会の全国大会や支部大会で本研究部会が主体となった企画セッションを行い、様々な分野の人間工学の研究者と議論を交わし、海事人間工学研究の活性化を行う。2022 年度は 6 月の日本人間工学会第 63 回大会で企画セッションを行う予定である。

2)見学会の開催

2022 年度においては、前々・前年度、開催できなかった東京海洋大学の船舶運航情報を収集管理解析する「先端ナビゲートシステム」の見学会を行う。もし、COVID-19 感染予防対策等の理由で開催できない場合には、他技術分野の知識を広げることがを目的に公設研究機関の兵庫県立工業技術センター等の見学を企画する予定である。

3)新事業の提案

昨年度に引き続き、本研究部会メンバーが中心となって海事人間工学の新たな研究開発テーマを議論し、公的助成事業等に申請する予定である。更に、座談会を開催し、本研究部会と企業との技術交流を推進する予定である。

4)幹事会の開催

本研究部会の円滑な運営を図るため、毎年度 2 回以上の幹事会を開催する。尚、コロナ禍でのコミュニケーションの頻度を増やすため、メーリングリストや WEB 会議システムを活用する。

(3)期待される効果

企画セッション開催を通じて、最新の海事関連研究に関する情報を発信する。また、研究者や技術者との連携を進展させることで、更なる海事関連研究の活性化及び課題解決を図る。

4-5.ワーク・アーゴノミクス研究部会

{部会長:青木 和夫}

<2018.4.1~2023.3.31>

(1)テーマ

オフィスワークではテレワーク等の機会が多くなり、オフィス用具やIT機器等の使いやすい環境を自分自身で整備し健康管理を行なうことが必要になってきた。またCOVID-19の感染拡大により在宅勤務が増加し、在宅で適切な作業環境を設定することが課題となっている。そこで研究部会では自分(他人)の働く・学ぶ環境の設定をできる知識を人間工学専門家向けに提供するとともに、一般向けにもFAQとして知識を提供してきた。今後はこのFAQを充実させるとともに、オフィスワーク以外の働く場についての課題を検討することとした。

(2)手段・方法

1)幹事会 メールやZoomによる幹事会を開催する

2)セミナーの開催 人間工学専門家認定機構と共催で働く環境等をテーマにセミナーを数回開催する

3)第63回大会における企画セッション「自動車産業における技術者の働き方と新しい役割」

①「NA ロードスターのレストアとクラフトマンシップ」横川正喜((株)マツダ E&T)

②「自動車開発現場における女性技術者の働き方紹介」塚田竹美((株)本田技術研究所)

4)テレワークの人間工学ガイドラインの改訂追加。

「在宅ワーク／在宅学習実施時の FAQ」(2020年9月10日発行)をさらに充実させるとともに、人間工学専門家向けのガイドラインの作成を行う。

(3)期待される効果

人間工学専門家認定機構と共催で働く環境等に関するセミナーを開催することによって、テレワークの人間工学のFAQを充実させるとともに、人間工学専門家に働く環境の設定方法についての知識を伝えることができる。また第63回大会の企画セッションで自動車産業における技術者の働き方や役割について議論することによって、自動化が進む生産現場で働く人々の働き方の新しい傾向を知ることができる。

4-6. 自動車人間工学研究部会

{部会長:石橋 基範}

<2019.4.1~2024.3.31>

(1)活動目的

以下の取り組みを通して意見交換や人的ネットワーク形成を進め、より使いやすい自動車の研究開発のために人間工学分野の普及・発展に貢献していく。

1) 自動運転や空飛ぶクルマといった将来モビリティに関する議論

2) 自動車開発に人間工学を活用する方法論に関する議論

(2)2022 年度の活動内容(手段・方法)

1) 第 63 回大会で研究部会独自のシンポジウムを企画・提案する。「クルマの「使いやすさ」開発における人間工学の実践」とのテーマで、3 件の話題提供を予定している。

2) 研究部会主催の講習会を開催する。自動車技術会等との連携を試み、自動車人間工学の基礎技術の底上げを目指す。

(3)期待される成果

自動車開発で「使える人間工学」に向けて、経験が浅い技術者に対して基礎技術の底上げを進められるとともに、グッドプラクティスや知見の共有化を進められる。これらを通して、自動車人間工学の議論の活性化や当該分野における人間工学会のプレゼンス向上が期待される。

4-7. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長:吉武 良治}

<2020.4.1~2025.3.31>

(1)2022 年度研究部会テーマ

1) 人間工学分野における実践的データ活用の検討と共有

2) ビッグデータ人間工学ノウハウ集の拡充と活用

(2)活動内容(手段・方法)

1) 年間を通じて幹事間の情報交流を電子メールおよびメッセージングアプリケーション上で行う。

2) メッセージングアプリケーションを活用し、部会員間の交流を図る。

3) 第 63 回全国大会にて、PIE 研究部会と共催で「Well-Being×ビッグデータ」をテーマとしたシンポジウムを開催する。

4) 年 6 回の講演会・談話会等をオンラインにて開催する。学会員外・研究部会員外は参加費の有料化を検討する。

(3)期待される成果

1) 研究部会の活動を活性化することで、参加者や研究部会員が増加し、多角的な視点、広い視点で人間工学分野のビッグデータ活用が進展する。

2) 人間工学の視点でまとめられたビッグデータ活用ノウハウ集のサイトとしてユニークな存在を目指し、社会に人間工学の有用性、重要性をアピールする。

(4)事務局の移転

1) 担当幹事の異動に伴い、研究部会事務局を以下に移転した。

604-8511 京都市中京区西ノ京桑原町1
株式会社 島津製作所 DX・IT 戦略統括部 DX 戦略ユニット
新家 敦(シニヤ アツシ)
TEL 075-823-2021(代)
FAX 075-823-2091
直通 070-1569-3084
E-Mail: shiny@shimadzu.co.jp

4-8. PIE 研究部会

{部会長:大須賀 美恵子}

<2020.4.1~2025.3.31>

(1)活動目的

COVID-19 拡大の影響により在宅ワークやリモート会議が増えて対面の機会が少なくなり、非対面でのコミュニケーションや心身の健康維持への関心が高まっている。加えてウェアラブルデバイスによる日々の生体計測が容易になり、生理計測を用いた心身の客観的評価に対する社会的ニーズが高まり、一気に需要が増した。この流れを受け、生体計測分野における重要なポジションの確立と社会貢献を目指して国内外での活動を継続する。内容は、これまでと同様に、適切な生理心理計測の手法および人間工学分野に適用する際の方法論について議論するとともに、新しい生理計測手法や装置に関する情報交換と課題の抽出を継続して行う。さらに、実験室実験からフィールド計測への転換期を迎えるにあたり、他の研究部会や企業とも連携して、山積する課題の解決に向けて前向きに取り組み、啓発活動を行う。

(2)2022 年度の活動内容(手段・方法)

- 1) 第 63 回全国大会(2022.7.30-31)において、ビッグデータ人間工学研究部会と共催で、講演と議論を行うハイブリッドセッションを企画している(講演者:広島大学脳・こころ・感性科学研究センター 町澤まろ先生、タイトル:脳波ビッグデータ収集による Well-Being 確立に向けての課題)。
- 2) 第 61 回日本生体医工学会大会(2022.6.28-30, 新潟)において、シンポジウム「日常・産業場面におけるウェアラブル生体計測デバイスの活用と課題〜いつでもどこでもあなただけをめざして〜」を予定している。
- 3) ワークショップや講習会など、感染状況に応じて内容や方法を模索し、実施を目指す。
- 4) 部会運営ミーティングあるいはメーリングリスト利用の議論により、部会運営体制を強固なものにし、部会活動をさらに活性化させるとともに、次年度の活動計画を策定する。

5)

(3)期待される成果

PIE 分野の現状認識、課題の抽出が行え、社会的に役に立つ PIE に向けての議論が活性化される。また、社会の関心や需要の高まりに応えるべく、基礎研究から得た知見をフィールドに活用するため、他分野や企業と連携して実践的検討を行なうなど、PIE の裾野を広げる。

4-9.科学コミュニケーション部会

{部会長:山田 泰行}

<2020.5.8~2025.3.31>

(1)2022 年度研究部会テーマ

- 1) 人間工学における科学コミュニケーションの領域マップの情報発信
- 2) 人間工学の社会実装に向けた科学コミュニケーション企画の推進
- 3) 人間工学の研究成果を効果的に社会発信していくための方策や指針の検討

(2)活動内容(手段・方法)

- 1) 部会特別企画(総説論文投稿)や学会、シンポジウムなどを通して、科学コミュニケーションの領域マップの情報を発

信する。

- 2) 「人間工学を社会に役立てるための科学ミーティング」を開催し、人間工学の社会実装に向けたアイデアを学会員と共有する。
- 3) 部会幹事によるミーティングを開催し、オープンサイエンスの国際動向を確認しながら、人間工学の研究成果を効果的に社会発信する方法を検討する。

(3)期待される成果

- 1) 人間工学における科学コミュニケーションの領域マップを周知することで、科学コミュニケーションを議論する際の共通言語や共通認識が学会員にもたらされる。
- 2) 特定の社会的課題に対して、人間工学による課題解決のアイデアが具体化される。科学コミュニケーションや部会活動に対する参加者からの関心が高まる。
- 3) 人間工学の社会実装とオープンサイエンスが促される。これにかかわる他組織(部会、委員会、他学会、等)との連携が深まる。

4-10.衣服人間工学部会

{部会長:土肥 麻佐子}

<2022.4.1~2027.3.31>

(1)活動テーマ

2012年度より継続して「グリーンファッションに関する研究」をテーマにした活動を行なっている。今年度についても、衣服の生産と消費の側面から、着装のあり方、廃棄ゼロを目指した衣服の構造・デザイン、衣服材料の使い方、衣服のリサイクル、フェアトレードなど、SDGs 達成への貢献を視野に入れた研究活動、啓蒙活動を進めていく予定である。

(2)活動計画(方法・手段)

- 1) 幹事会 Zoomやメールによる幹事会の開催
- 2) 研究例会の開催 Webと対面で2回程度開催予定
 - ・8月 web 講演会および web ワークショップ
 - ・2月 工場見学および講演会(状況により web 開催)

(3)期待される成果

講演会、工場見学、ワークショップなどを行うことにより、グリーンファッションに関する研究・教育についての意見交換および研究交流の活性化が期待できる。また、地球環境問題をめぐる消費者の意識の向上に衣生活の立場から貢献できると考えている。

4-11.医療労働関連MSDs 研究部会

{部会長:松崎 一平}

<2022.6.1~2027.3.31>

・活動計画概要

本部会では人間工学分野における医療労働関連MSDs研究活動の推進をはかるため、主に下記の取り組みを行う。

1. 医療労働関連MSDs予防のためのツール・教材の検討・開発
2. 医療労働関連MSDsに関する教育機会の提供(研究会の開催)
3. 関連学会・研究部会などとの共同企画の実施および連携
4. 医療労働関連MSDs 軽減のグッドプラクティス・機器情報の収集と発信
5. その他、本研究会趣旨に必要なと思われる諸活動の実施

(1) 本会の目的

人間工学をシステム論的立場から研究・議論することを目的に、感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会を中心として立ち上がった本部会は、今年で30年目を迎えた。毎年3月に開催される研究発表会(システム大会、第28回・第29回および昨年度開催した第30回大会は新型コロナウイルス拡大の為 On Line にて開催)は、研究者として第一歩を踏み出す若手研究者、卒業研究生、修士研究生にとって、日本人間工学会全国大会(毎年6月開催)・各地方支部大会前の所謂、萌芽的研究段階における重要な発表の場となっている。さらに近年、全国各地から大学関係者、企業研究者の発表も増え、医学から工学、さらには人文科学領域にわたる幅広い分野の研究者が集い、議論できる同大会は盛況である。

(2) 活動の内容

第30回システム大会(令和三年度大会、東海大学主催)を On Line にて開催した。節目(第30回)となる大会であることから、海外演者(Dr. Marino Menotti, スイス連邦工科大学チューリッヒ校)を招き、医療と人間工学のジョイントを目的とした国際シンポジウム(International Symposium on Collaborative Research in Medical Care and Ergonomics, JES System Conference 2022)を開催した。On Line であったものの、二日にわたり行われた大会には、のべ100名を超える参加者を集め、今回も十分な成功を収めたと考える。新型コロナの状況にも左右されるが、例年に続き、来年度も定期大会を計画しており、同大会を通じて、学生、若手研究者にも人間工学への興味を持ってもらい、日本人間工学会会員にすべく努力する予定である。次期大会(第31回システム大会、主催校未定)開催に向け、年数回、大学教員を中心に幹事会の実施を計画する。

V. 第8期代議員及び役員選挙報告

(2022年社員総会～2024年社員総会)

【理事長 1名】

鳥居塚 崇

【副理事長 1名】

中西 美和

【理事 27名】

(五十音順)

青木 洋貴

青木 宏文

石橋 圭太

石原 茂和

榎原 毅

笠松 慶子

狩川 大輔

河合 隆史

神田 幸治

久保 博子

鴻巣 努

小谷 賢太郎

小林 大二

斎藤 真

境 薫

三林 洋介

庄司 卓郎

高橋 信

佃 五月

鳥居塚 崇

中川 千鶴

中西 美和

能登 裕子

松田 文子

持丸 正明

横井 元治

横山 詔常

【監事 2名】

赤松 幹之

大須賀 美恵子

【代議員 129名】

青木 和夫

青木 洋貴

青木 宏文

赤津 裕子

赤松 幹之

阿久津 正大

朝尾 隆文

有馬 正和

易 強

池浦 良淳

石橋 基範

石橋 圭太

石原 恵子

石原 茂和

石松 一真

井戸 健二

伊藤 謙治

岩切 一幸

臼井 伸之介

内野 英治

榎原 毅

大内 啓子

大倉 典子

大須賀 美恵子

大杉 淳

大西 明宏

大西 範和

大橋 智樹

大平 肇子

岡田 明

岡田 有策

奥田 紫乃

笠松 慶子

加藤 麻樹

辛島 光彦

狩川 大輔

河合 隆史

川野 常夫

神田 幸治

北村 正晴

木村 貴彦

久保 博子

栗谷川 幸代

桑原 教彰

鴻巣 努

小崎 智照

小谷 賢太郎

小林 大二

才木 常正

斎藤 真

西連地 利己

境 薫

坂下 哲也

佐久間 航

佐々木 正人

佐々木 美奈子

澤 貢

三林 洋介

志子田 繁一

篠原 一光

渋谷 雄

下村 義弘

首藤 英里香

庄司 卓郎

庄司 直人

城内 博

新家 敦

鈴木 桂輔

高橋 信

竹内 晴彦

田島 一美

樹野 淳也

田宮 高信

佃 五月

辻 敏夫

辻本 恵美

土屋 敏夫

戸上 英憲

鳥居塚 崇

中川 千鶴

中西 美和

中本 和宏

中谷 直史

名児耶 厚

西 修二

西川 一男

能登 裕子

萩原 啓

長谷川 智之

平沢 尚毅

深谷 直樹

福住 伸一

福本 正勝

堀内 邦雄

堀江 良典

本多 薫

松岡 敏生

松河 剛司

松田 礼

松田 文子

三上 功生

水垣 州子

水垣 信威千

武藤 憲司

村木 里志

村田 厚生

持丸 正明

森本 一成

八木 佳子

矢口 博之

八藤後 猛

山岡 俊樹

山田 刈入 孝介

山根 基

山本 まどか

横井 元治

横井 郁子

横山 清子

横山 詔常

吉澤 昌純

吉武 良治

吉成 哲

吉村 健志

依田 光正

Loh Ping Yeap

和田 一成

和田 親宗

渡邊 伸吾

渡邊 裕

一般社団法人日本人間工学会2022年度 委員会/担当等一覧

委員会/担当名		担当・委員長・副委員長等	活動のポイント等
常設委員会・担当（長期的及び継続的に実施する事業）			
	総務担当	中川 千鶴、横井 元治	学会運営の執行管理、事務局機能の強化の検討
	財務担当	笠松 慶子、河合 隆史	財務管理と学会財政に関する中長期計画等の提案
	広報委員会	青木 宏文、松田 文子	HPの運用推進、GPDBによる実践事例公開、人間工学の社会発信
	編集委員会	榎原 毅、村木 里志	学会誌の編集と発行、電子投稿・査読システムの運用
	国際協力委員会	小谷 賢太郎、榎原 毅	国際人間工学連合・アジア人間工学デザイン会議等、国際協力活動の推進
	ISO/TC159 国内対策委員会	佐藤 洋、横井 孝志	ISO/TC159 に関わる規格の提案・作成・審議、JIS 規格案作成と普及
	表彰委員会	吉武 良治、鴻巣 努	表彰制度の見直しと整備、各賞受賞候補者の選考、国際表彰の推進
	安全人間工学委員会	芳賀 繁、狩川 大輔	安全に関わる学会活動の提言等、安全工学シンポジウム運営への参加
	学術担当	青木 洋貴、能登 裕子、久保 博子	日本学術会議との連携、横幹連合への役員派遣、科研費の細目要望
	人間工学専門家認定機構	八木 佳子、井出 有紀子	認定・再認定実施、講演会・セミナー等の開催、GPDB への協力
臨時委員会・担当（目標と期間を定め、成果を組織的に活用する事業）			
	若手支援委員会	神田 幸治、境 薫、石橋 圭太	学生や若手が学会活動に継続的に関わる活動や枠組みを検討
	企業活動推進委員会	佃 五月、横山 詔常	企業活動や産学連携プロジェクトの見える化、活性化を検討
	国際誌検討委員会	榎原 毅、村木 里志、下村 義弘	人間工学分野の国際誌の現状を調査し、今後の戦略を検討
	子どもの ICT 活用委員会	柴田 隆史、岡田 衛	学校等の ICT 機器の使用に関する人間工学課題の検討と情報の共有、ガイドライン作成準備
	将来構想・普及委員会	持丸 正明、青木 宏文、榎原 毅	AI の普及等、人間を取り巻く技術環境が急速に変化する中で、人間工学の将来的な役割を検討し、あるべき姿・構想を文書として取りまとめ、社会発信していくことを推進
	PSE 委員会	鳥居塚 崇、八木 佳子	IEA 改訂コアコンピテンシーに基づき、JES と CPEJ が連携しながら人間工学の教育、普及、実践のサイクルを確立することを推進
	第 63 回大会担当	村田 厚生	2022 年 7 月 30～31 日に大会開催
	第 64 回大会担当	下村 義弘	2023 年 9 月 7～8 日に大会開催